

感染症発生動向調査事業報告書

- 平成 2 7 年版 -

山梨県感染症情報センター

目 次

事業概要

1 感染症発生動向調査事業	1
2 対象感染症	2
3 地域区分と定点医療機関数	4

患者発生状況

1 全数把握対象感染症	5
2 定点把握対象感染症	6
2-1 インフルエンザ定点から報告された感染症	7
インフルエンザ	7
(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く)	
2-2 小児科定点から報告された感染症	9
RSウイルス感染症	9
咽頭結膜熱	10
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	11
感染性胃腸炎	12
水痘	13
手足口病	14
伝染性紅斑	15
突発性発しん	16
百日咳	17
ヘルパンギーナ	18
流行性耳下腺炎	19
2-3 眼科定点から報告された感染症	20
急性出血性結膜炎	20
流行性角結膜炎	21
2-4 性感染症定点から報告された感染症	22
性器クラミジア感染症	22
性器ヘルペスウイルス感染症	23
尖圭コンジローマ	24
淋菌感染症	25
2-5 基幹定点から報告された感染症	26
細菌性髄膜炎	27
無菌性髄膜炎	28

マイコプラズマ肺炎	29
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	30
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	31
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	32
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	33
薬剤耐性緑膿菌感染症	34

病原微生物検出状況

1 ウイルス検出状況	35
2 細菌検出状況	36

参考資料

1 感染症発生動向調査の指定届出機関一覧	37
2 全数把握対象感染症の報告数	39
3 定点把握対象感染症の報告数と定点当たり報告数	41
4 平成 26 年と 27 年における定点当たり報告数の比較	42
5 定点把握対象感染症の定点当たり報告数の推移	43
6 感染症発生動向調査の調査報告週対応表	44

事業概要

1 感染症発生動向調査事業

本事業は昭和 56 年 7 月から 18 疾病を対象に開始されてから、システムのオンライン化や対象とする疾病等、充実・拡大されて運用されてきた。

平成 11 年 4 月「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(以下「感染症法」という。)の施行により、感染症発生動向調査が感染症の発生及びまん延の防止を目的として感染症施策の一つに位置づけられた。(感染症法第 3 章 感染症に関する情報の収集及び公表、第 12 条、第 14 条)

平成 19 年 4 月の感染症法の改正により、発生動向調査の対象疾病の再分類や結核予防法の統合等、大幅な変更があり、その後平成 20 年 1 月には「風しん」及び「麻しん」が五類感染症の定点把握の対象から五類感染症の全数把握対象に変更された。5 月には「鳥インフルエンザ (H5N1)」が二類感染症に追加されるとともに、感染症の類別に新型インフルエンザ等感染症が追加された。平成 23 年 2 月には「チクングニア熱」が四類感染症に、「薬剤耐性アシネトバクター感染症」が五類感染症(定点)に追加された。

平成 25 年 3 月から「重症熱性血小板減少症候群(病原体が SFTS ウイルスであるものに限る。)」が四類感染症に、4 月から「侵襲性インフルエンザ菌感染症」「侵襲性髄膜炎菌感染症」「侵襲性肺炎球菌感染症」が五類感染症(全数)に追加され、「髄膜炎菌性髄膜炎」は削除された。さらに 5 月から「鳥インフルエンザ (H7N9)」が指定感染症に定められた。また、10 月から感染性胃腸炎のうち病原体がロタウイルスであるものについて、基幹定点の対象感染症となった。

平成 26 年 4 月 鳥インフルエンザ A (H7N9) について、指定感染症としての指定が 1 年間延長された。7 月からは、ヒトコブラクダの中東呼吸器症候群が、獣医師の届け出る疾患に追加され、中東呼吸器症候群 (MERS) が指定感染症となった。9 月から、「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症」、「播種性クリプトコックス症」、「水痘(入院例に限る)」、「薬剤耐性アシネトバクター感染症」が、5 類全数把握対象疾患に追加された。11 月 21 日には感染症法の一部を改正する法律が公布され、実験により感染させられた動物の獣医師の届出対象からの除外(平成 26 年 11 月 21 日施行)及び鳥インフルエンザ (H7N9) 及び中東呼吸器症候群 (MERS) の二類感染症へ追加(平成 27 年 1 月 21 日施行)と、感染症の情報収集体制強化(平成 28 年 4 月 1 日施行)が示された。

平成 27 年 5 月には侵襲性髄膜炎菌感染症及び麻しんについて患者の氏名、住所等を直ちに届け出なければならない五類感染症として定められた。

山梨県では情報を週及び月単位で収集・分析し、関係機関に還元するとともに、ホームページを通じて県民に公開している。

2 対象感染症

平成 26 年 12 月末現在、全数把握対象は 86 疾患、定点把握対象は 25 疾患の計 111 疾患を調査対象としている。

全数把握対象（86 疾病）

	対 象 疾 病
一類感染症（7 疾病）	(1)エボラ出血熱、(2)クリミア・コンゴ出血熱、(3)痘そう、(4)南米出血熱、(5)ペスト、(6)マールブルグ病、(7)ラッサ熱
二類感染症（7 疾病）	(8)急性灰白髄炎、(9)結核、(10)ジフテリア、(11)重症急性呼吸器症候群（病原体がコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る）、(12)中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る）、(13)鳥インフルエンザ（H5N1）、(14)鳥インフルエンザ（H7N9）
三類感染症（5 疾病）	(15)コレラ、(16)細菌性赤痢、(17)腸管出血性大腸菌感染症、(18)腸チフス、(19)パラチフス
四類感染症（43 疾病）	(20) E 型肝炎、(21)ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎を含む。）(22) A 型肝炎、(23)エキノコックス症、(24)黄熱、(25)オウム病、(26)オムスク出血熱、(27)回帰熱、(28)キャサヌル森林病、(29)Q 熱、(30)狂犬病、(31)コクシジオイデス症、(32)サル痘、(33)重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属 S F T S ウイルスであるものに限る。）(34)腎症候性出血熱、(35)西部ウマ脳炎、(36)ダニ媒介脳炎、(37)炭疽、(38)チクングニア熱、(39)つつが虫病、(40)デング熱、(41)東部ウマ脳炎、(42)鳥インフルエンザ（H5N1 及び H7N9 を除く。）(43)ニパウイルス感染症、(44)日本紅斑熱、(45)日本脳炎、(46)ハンタウイルス肺症候群、(47) B ウイルス病、(48)鼻疽、(49)ブルセラ症、(50)ベネズエラウマ脳炎、(51)ヘンドラウイルス感染症、(52)発しんチフス、(53)ボツリヌス症、(54)マラリア、(55)野兎病、(56)ライム病、(57)リッサウイルス感染症、(58)リフトバレー熱、(59)類鼻疽、(60)レジオネラ症、(61)レプトスピラ症、(62)ロッキー山紅斑熱
五類感染症（22 疾病）	(63)アメーバ赤痢、(64)ウイルス性肝炎（E 型肝炎及び A 型肝炎を除く。）(65)カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感

	<p>染症、(66)急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)、(67)クリプトスポリジウム症、(68)クロイツフェルト・ヤコブ病、(69)劇症型溶血性レンサ球菌感染症、(70)後天性免疫不全症候群、(71)ジアルジア症、(72)侵襲性インフルエンザ菌感染症、(73)侵襲性髄膜炎菌感染症、(74)侵襲性肺炎球菌感染症、(75)水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る。)、(76)先天性風しん症候群、(77)梅毒、(78)播種性クリプトコックス症、(79)破傷風、(80)バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(81)バンコマイシン耐性腸球菌感染症、(82)風しん、(83)麻しん、(84)薬剤耐性アシネトバクター感染症</p>
<p>新型インフルエンザ等感染症 (2疾病)</p>	<p>(110)新型インフルエンザ、(111)再興型インフルエンザ</p>
<p>指定感染症</p>	<p>該当なし</p>

定点把握対象(五類感染症・25疾病)

	対 象 疾 病
<p>小児科定点(11疾病)</p>	<p>(85)RSウイルス感染症、(86)咽頭結膜熱、(87)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(88)感染性胃腸炎、(89)水痘、(90)手足口病、(91)伝染性紅斑、(92)突発性発しん、(93)百日咳、(94)ヘルパンギーナ、(95)流行性耳下腺炎、</p>
<p>インフルエンザ定点(1疾病)</p>	<p>(96)インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く)</p>
<p>眼科定点(2疾病)</p>	<p>(97)急性出血性結膜炎、(98)流行性角結膜炎</p>
<p>性感染症定点(4疾病)</p>	<p>(99)性器クラミジア感染症、(100)性器ヘルペスウイルス感染症、(101)尖圭コンジローマ、(102)淋菌感染症</p>
<p>基幹定点(8疾病)</p>	<p>(88)感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの、(103)クラミジア肺炎(オウム病を除く。)、(104)細菌性髄膜炎(インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。)、(105)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、(106)マイコプラズマ肺炎、(107)無菌性髄膜炎、(108)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(109)薬剤耐性緑膿菌感染症</p>

3 地域区分と定点医療機関数

県内で発生している感染症の発生動向を地域毎に把握するため、県では、人口及び医療機関の分布を考慮し、下表の数の医療機関を患者定点若しくは、病原体定点として指定した。(医療機関名は、参考資料の1「感染症発生動向調査の指定届出機関一覧表」を参照)

		中北	峡北支所	峡東	峡南	富士・東部	計
患者 定 点	小児科定点	8	5	4	2	5	24
	インフルエンザ定点	13	8	7	3	9	40
	眼科定点	3	2	2	0	2	9
	STD定点	3	2	2	0	2	9
	基幹定点	3	2	2	1	2	10
	合計	30	19	17	6	20	92
病 原 体 定 点	小児科定点	2	0	0	0	1	3
	インフルエンザ定点	1	1	1	1	1	5
	眼科定点	1	0	0	0	0	1
	STD定点	0	0	0	0	0	0
	基幹定点	3	2	2	1	2	10
	合計	7	3	3	2	4	19

【説明】

患者定点：定点把握対象の五類感染症の発生状況を報告する医療機関

病原体定点：病原体の分離等の検査情報の収集や病原体検査のための検査材料を採取する医療機関

小児科定点：小児科を標榜する医療機関（主として小児科医療を提供しているもの）

インフルエンザ定点：小児科定点に加え、内科を標榜する医療機関（主として内科医療を提供しているもの）を内科定点として指定し、両者を合わせた医療機関

眼科定点：眼科を標榜する医療機関（主として眼科医療を提供しているもの）

STD（性感染症）定点：産婦人科若しくは産科若しくは婦人科（産婦人科系）、医療法施行令（昭和23年政令第326号）第3条の2第1項第1号八及び二(2)の規定により性感染症と組み合わせた名称を診療科名とする診療科又は泌尿器科若しくは皮膚科を標榜する医療機関（主として各々の標榜科の医療を提供しているもの）

基幹定点：患者を300人以上収容する施設を有する病院であって内科及び外科を標榜する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）

患者発生状況

1 全数把握対象感染症

山梨県及び全国における平成 27 年の全数把握対象感染症の報告数を「参考資料」の 2 に示した。

《一類感染症》

報告はなかった。

《二類感染症》

二類感染症 7 疾患のうち、結核 114 例の報告があった。

《三類感染症》

三類感染症 5 疾患のうち、細菌性赤痢 2 例 (*flexneri* (B 群))、腸管出血性大腸菌感染症 21 例 (O26 : 2 例、O157 : 10 例、165:1 例、不明 : 8 例)、パラチフス 1 例の 3 疾患 24 例の報告があった。

《四類感染症》

四類感染症 43 疾患のうち、E 型肝炎 (1 例)、A 型肝炎 (4 例)、デング熱 (2 例)、レジオネラ症 (12 例) の 4 疾患 19 例の報告があった。

《五類感染症》

五類感染症 22 疾患のうち、アメーバ赤痢 (3 例)、ウイルス性肝炎 (E 型肝炎及び A 型肝炎を除く) (2 例)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 (10 例)、クロイツフェルト・ヤコブ病 (3 例)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (4 例)、後天性免疫不全症候群 (6 例)、侵襲性インフルエンザ菌感染症 (1 例)、侵襲性肺炎球菌感染症 (14 例)、水痘 (入院例) (1 例)、梅毒 (9 例)、播種性クリプトコックス症 (3 例)、破傷風 (1 例)、麻しん (1 例) の 13 疾患 58 例の報告があった。

《新型インフルエンザ等感染症》

報告はなかった。

2 定点把握対象感染症

山梨県および全国における平成 27 年の疾患別報告数と定点医療機関当たりの患者報告数¹（以下、「定点当たり報告数」と言う）を 参考資料の 3 に示した。本県で患者報告数が多かった疾病は、インフルエンザ（8,805 例）、感染性胃腸炎（6,026 例）、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎（2,827 例）、手足口病（1,766 例）でいずれも報告数が 1,000 例を超えた。定点当たり報告数が全国に比べて高かった疾病は、ヘルパンギーナ（山梨県 39.58、全国 31.22）、性器ヘルペスウイルス感染症（山梨県 9.78、全国 9.16）、薬剤耐性緑膿菌感染症（山梨県 0.80、全国 0.45）の 3 疾患であった。

平成 26 年と 27 年における定点当たり報告数の比較を 参考資料の 4 に示した。定点当たり報告数が前年より増加した疾病は、伝染性紅斑（20.33 倍）、無菌性髄膜炎（19.33 倍）、手足口病（7.39 倍）など 14 疾病であった。

また、全国よりも山梨県における定点当たりの報告数が高かった疾病は、無菌性髄膜炎（2.59 倍）、薬剤耐性緑膿菌感染症（1.78 倍）、ヘルパンギーナ（1.27 倍）、性器ヘルペスウイルス感染症（1.07 倍）の 4 疾病であった。

1：定点医療機関当たりの患者報告数とは、

山梨県が指定した医療機関（指定届出機関）から 1 週間ごとに報告される患者数を、定点医療機関数で割った値です。県内の指定届出機関の一覧は 参考資料の 1 に掲載してあります。

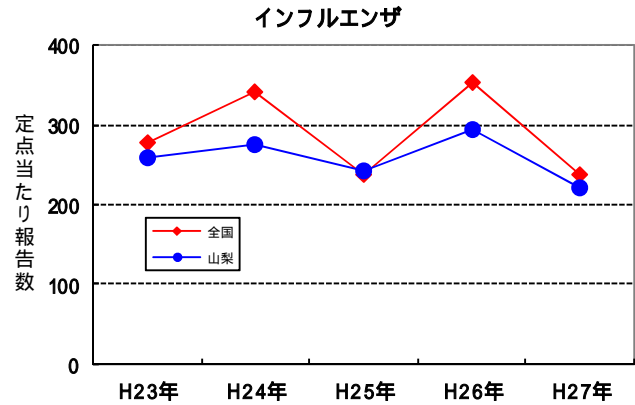
2 - 1 インフルエンザ定点から報告された感染症

インフルエンザ定点は 40 で、県内全保健所管内にあり週報として報告される。

インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）

定点医療機関から 8,805 例(定点当たり報告数 220.13) の報告があり、前年(11,770 例) の約 75% であった。

最近 5 年間の状況は全国とほぼ同様の傾向であった。

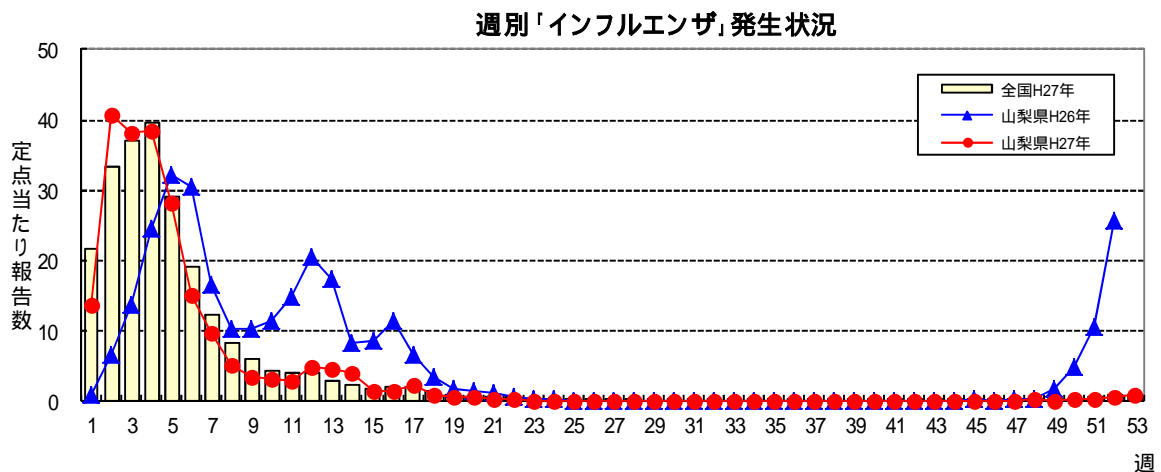


《週別発生状況》

2014/2015 シーズンは H26 年の第 51 週に定点当たり報告数が注意報レベル²の 10 を超え、第 2 週には 40.85 と警報レベル²である 30 を超えた。第 5 週 (28.08) に警報レベルが解除され第 7 週以降報告数が減少したが、第 18 週 (0.85) に 1.00 以下となるまで流行は継続した。ピークは第 2 週 (40.85) であった。

2015/2016 シーズンは第 37 週から患者報告が始まったが、流行開始の基準となる 1.00 を超えることはなかった。

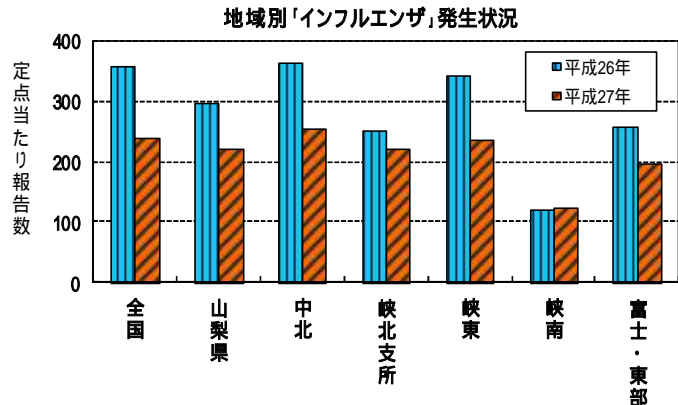
年間を通じた発生状況は、全国とほぼ同様に推移した。



《地域別発生状況》

定点当たりの報告数が最も多かったのは中北保健所管内（253.15）、次いで峡東保健所管内（233.86）であった。最も少なかったのは前年と同じ峡南保健所管内（122.33）であった。

峡南保健所管内でやや増加したものの、全体的に前年よりも減少した。



2：注意報レベル、警報レベルとは

警報・注意報のねらいは、感染症発生動向調査における定点把握感染症のうち、公衆衛生上その流行現象の早期把握が必要な疾病について、流行の原因究明や拡大阻止対策などを講ずるための資料として、関係者に向け、データに何らかの流行現象がみられることを、一定の科学的根拠に基づいて迅速に注意喚起することにあります。

警報レベル 大きな流行が発生または継続しつつあると疑われることを指します。

注意報レベル 流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性が高いこと、流行の発生後であれば流行が継続していると疑われることを指します。

警報レベルは1週間の定点当たり報告数がある基準値(開始基準値)以上で開始し、別の基準値(終息基準値)未満で終息します。注意報レベルは1週間の定点当たり報告数がある基準値以上の場合です。警報・注意報レベルの基準値は、これまでの感染症発生動向調査データから、以下の通り定められています。

疾病	警報レベル		注意報レベル
	開始基準値	終息基準値	基準値
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	—
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	—
感染性胃腸炎	20	12	—
水痘	7	4	4
手足口病	5	2	—
伝染性紅斑	2	1	—
百日咳	1	0.1	—
ヘルパンギーナ	6	2	—
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	—
流行性角結膜炎	8	4	—

基準値はすべて定点当たり報告数です。注意報の「 - 」は対象としないことを意味します。

2 - 2 小児科定点から報告された感染症

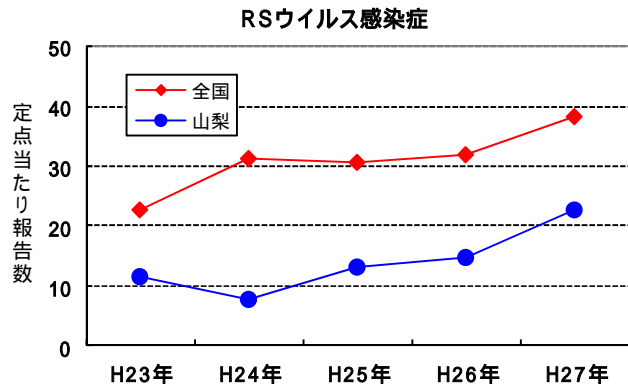
小児科定点は 24 で、県内全保健所管内にあり週報として報告される。

総報告数は 13,919 例で、前年（11,218 例）より増加した。前年と比較して報告数が増加した疾患は、RS ウイルス感染症、A 群溶血性レンサ球菌感染症、手足口病、伝染性紅斑、突発性発疹の 5 疾患であった。

RS ウイルス感染症

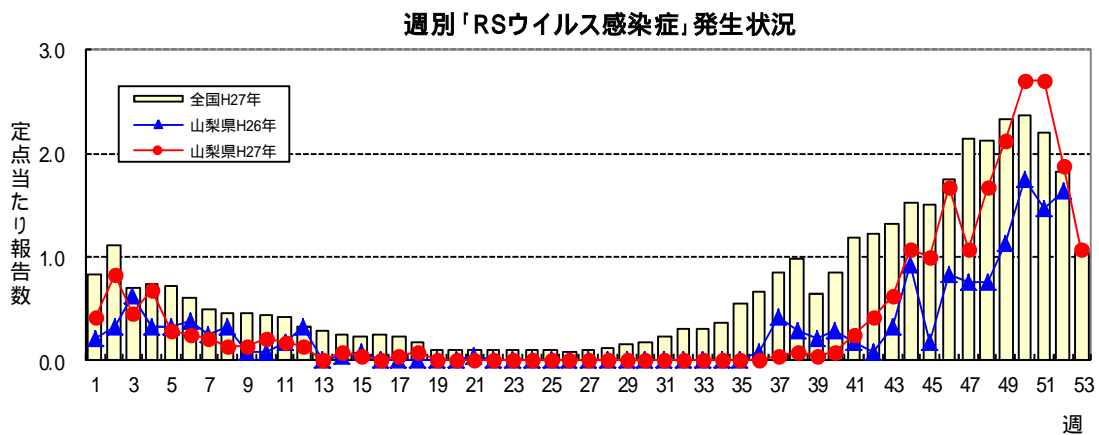
定点医療機関から 544 例（定点当たり報告数 22.67）の報告があり、前年（357 例）よりも 1.5 倍の報告があった。

最近 5 年間の状況を見ると、平成 25 年から増加傾向にあり、全国と同様の推移をしている。



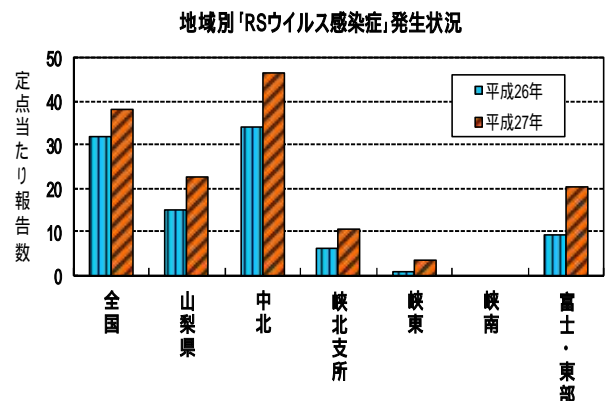
《週別発生状況》

第 44 週に報告数が 1.0 を超え、第 50,51 週(2.71)をピークとした冬季の流行がみられた。全国では、41 週に 1.0 を超え、第 50 週（2.37）にピークを示した。



《地域別発生状況》

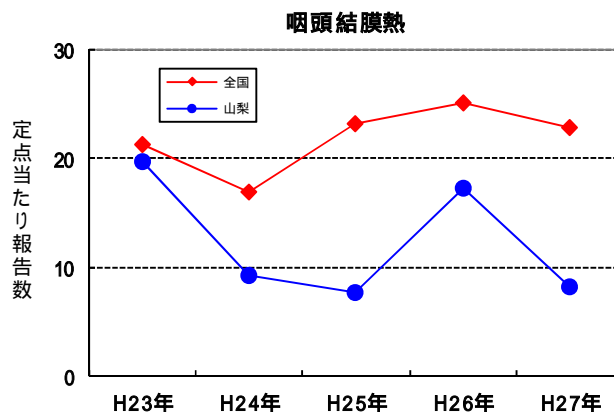
中北保健所管内（46.63）及び富士東部管内（20.6）で大幅な増加があり、流行の偏りがみられた。



咽頭結膜熱

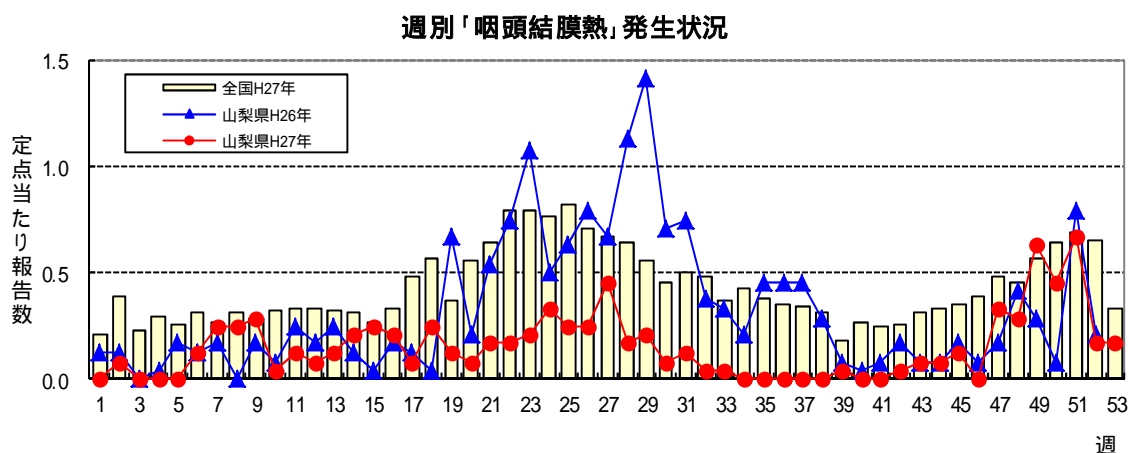
定点医療機関から 196 例（定点当たり報告数 8.17）で、前年（416 例）の約半数の報告だった。

全国でも前年より減少した。



《週別発生状況》

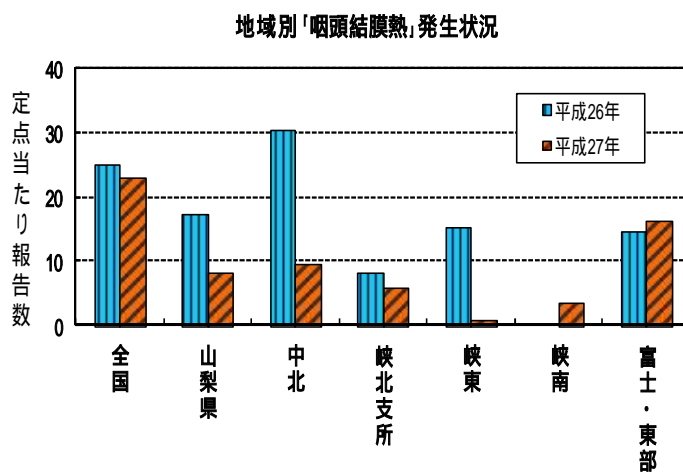
第 49 週（0.63）、51 週（0.67）の冬季にやや小さなピークが見られたが、前年のような夏季の大きな流行はなかった。



《地域別発生状況》

前年に比べ、中北保健所管内（9.5）と峡東保健所管内（0.75）で大幅に減少した。

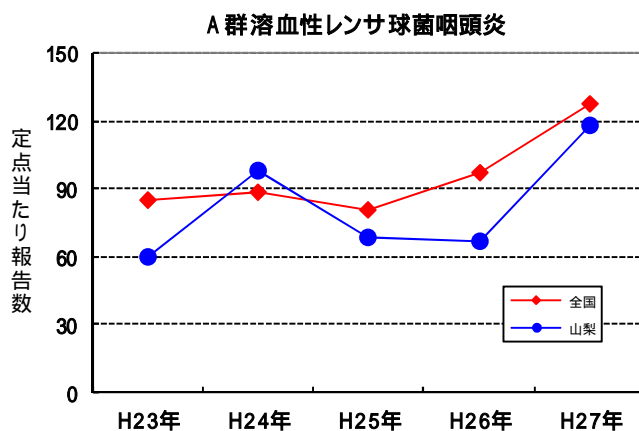
最も報告数が多かった富士・東部保健所管内（16.2）は前年に比べやや増加し、患者の発生する地域に変化が見られた。



A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

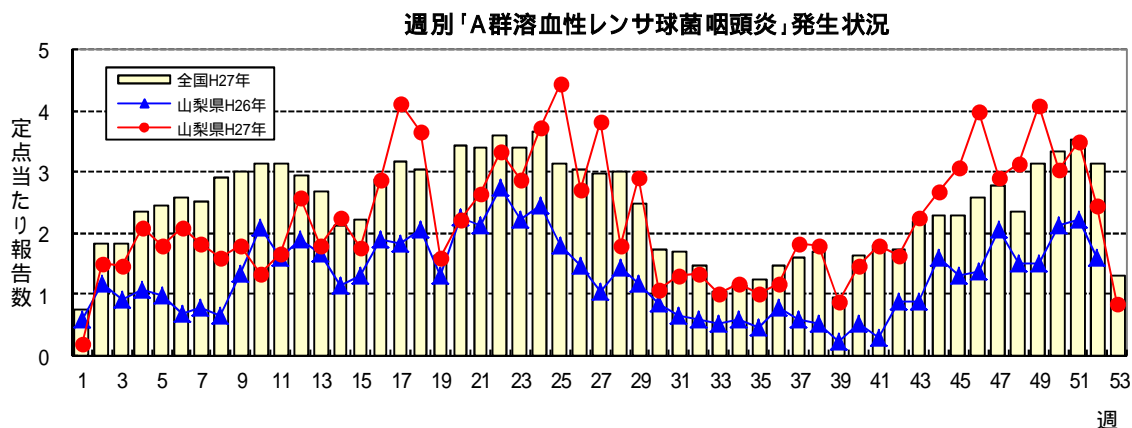
定点医療機関から 2,827 例（定点当たり報告数 117.79）の報告があり、前年（1,605 例）の 1.7 倍の増加であった。

全国でも、前年の 1.3 倍の増加であった。



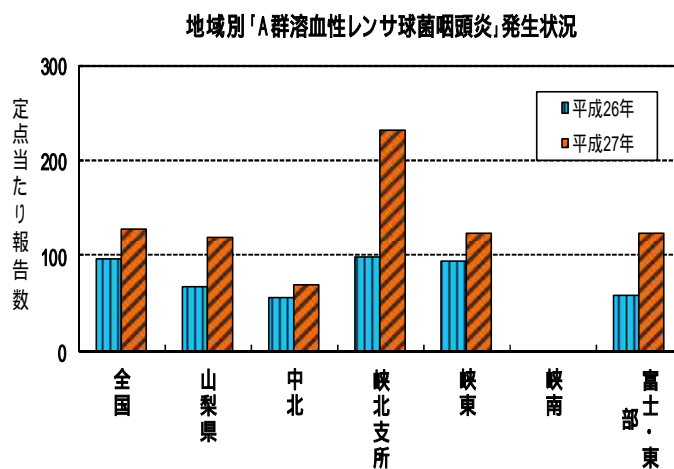
《週別発生状況》

第 16 週から 18 週、第 20 週から 29 週、第 43 週から 52 週と 3 回のピークがあり、この時期の流行がみられた。



《地域別発生状況》

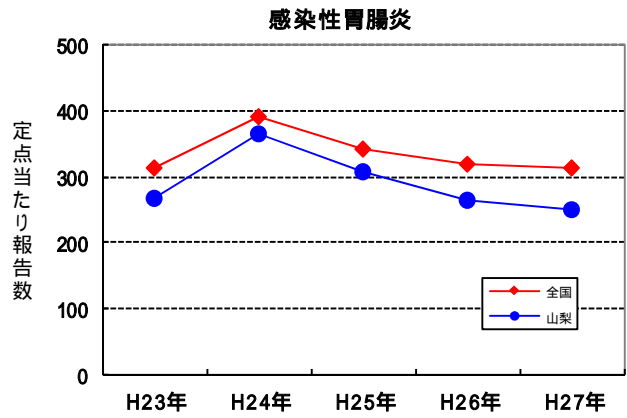
峡南保健所管内からは昨年同様報告がなかったが、他の 4 保健所管内では報告数が増加した。峡北支所（230.6）および富士・東部保健所管内（124.0）では、報告数が大幅に増加した。



感染性胃腸炎

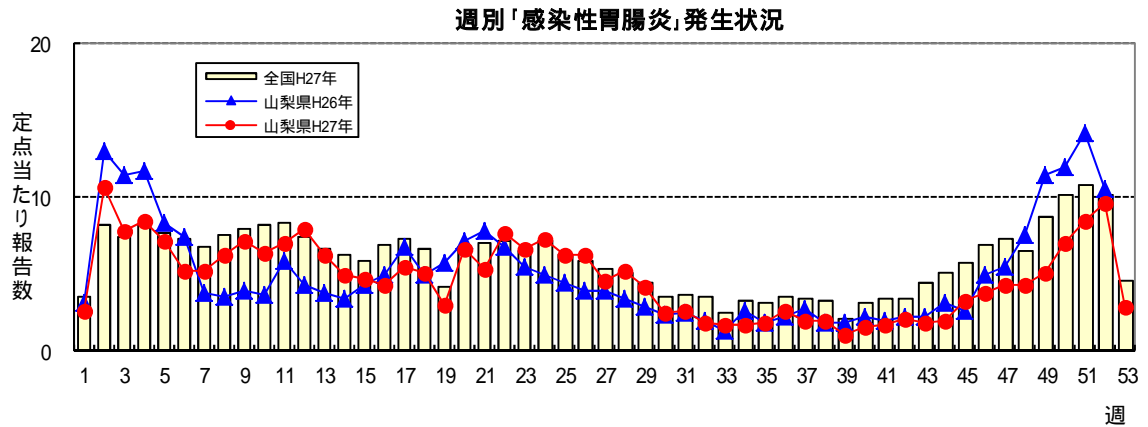
定点医療機関から 6,026 例（定点当たり報告数 251.08）の報告があり、前年（6,340 例）よりやや減少した。

最近 5 年間は、全国より少ない状況でほぼ同様に推移している。



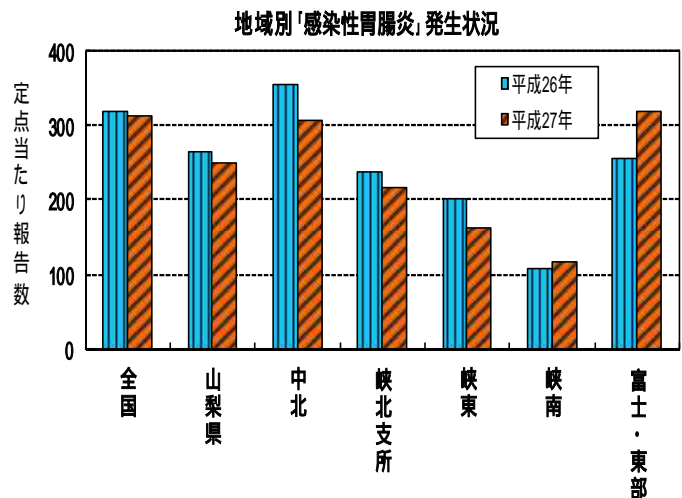
《週別発生状況》

定点当たり報告数のピークは第 2 週(10.67)で、年間を通しての発生状況は、全国とほぼ同様の推移であった。



《地域別発生状況》

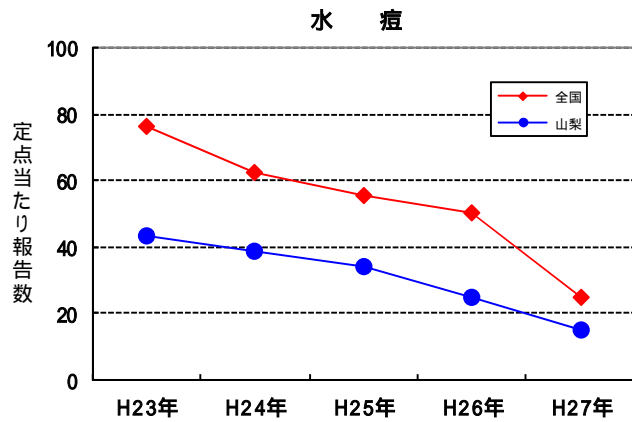
富士東部保健所管内（320.2）および中北保健所管内（306.5）の定点あたりの報告数が300を超えたが、地域別発生状況は昨年とほぼ同様の状況であった。



水痘

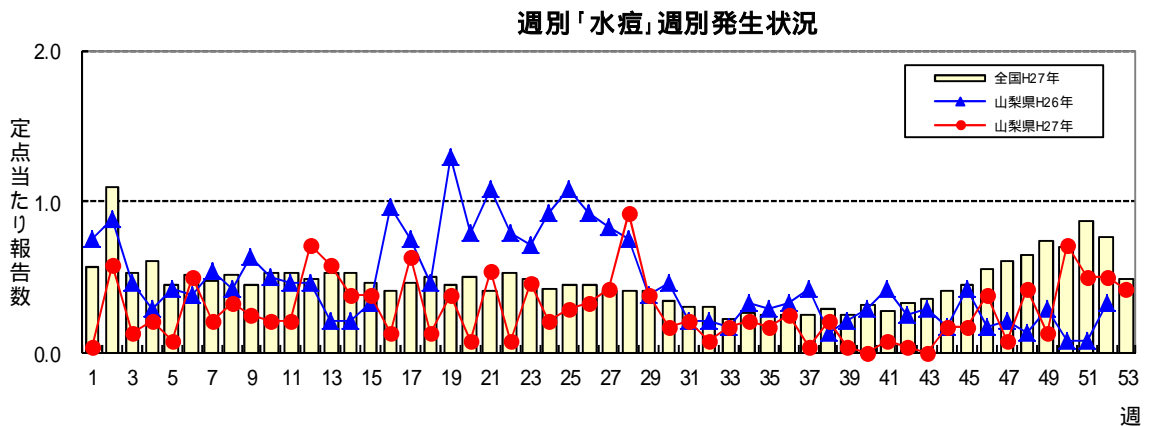
定点医療機関から 358 例(定点当たり報告数 14.92) の報告があり、前年 (588 例) の約 60% であった。

最近 5 年間は、全国的にも減少傾向である。



《週別発生状況》

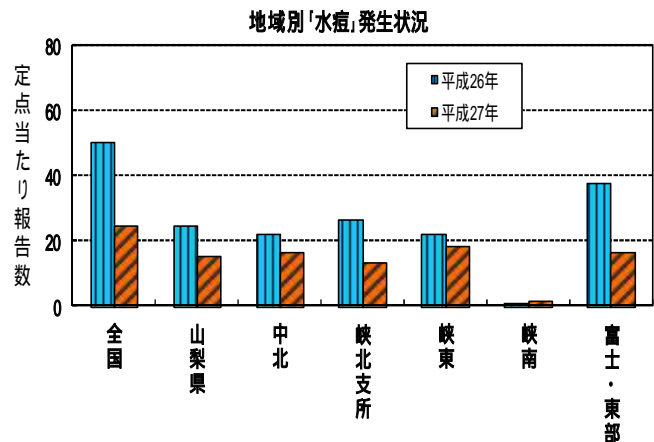
定点当たり報告数のピークは第 28 週 (0.92) だったが、1.0 を超えることはなく流行はなかった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは、峡東保健所管内 (18.25) であった。

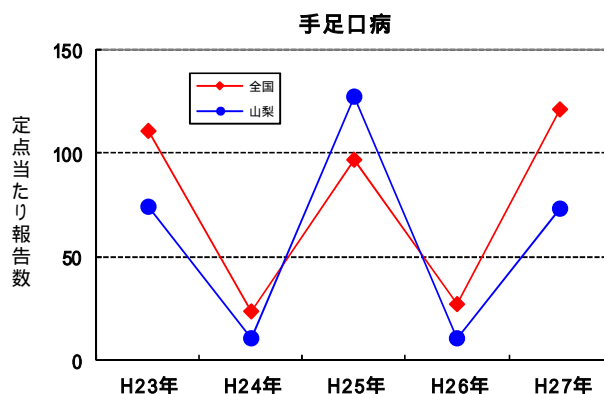
全ての保健所管内で、前年より報告数は少なかった。



手足口病

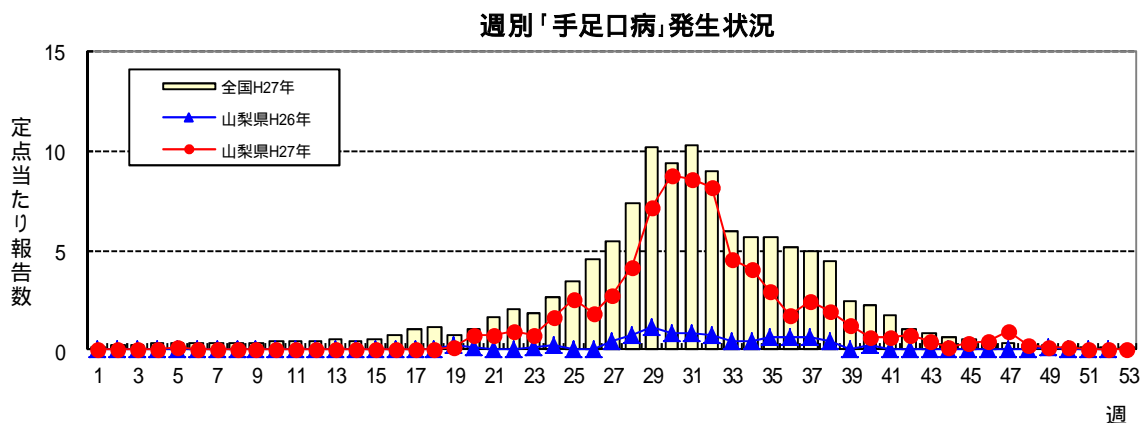
定点医療機関から 1,766 例（定点当たり報告数 73.58）の報告があり、前年（239 例）の約 7 倍と著しく増加した。

全国でも大幅な増加が見られ、最近 5 年間は全国の状況と同様の推移をしている。



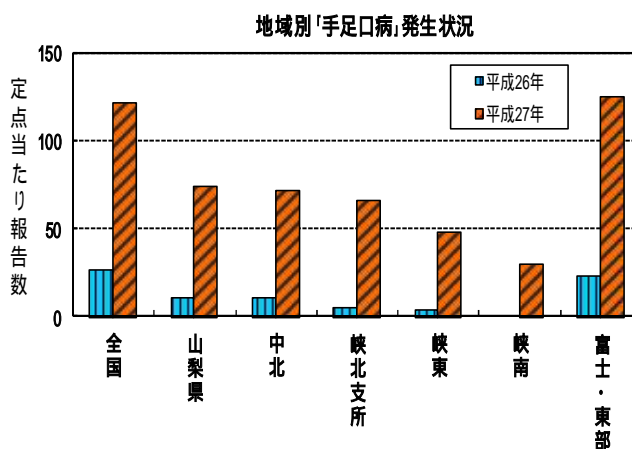
《週別発生状況》

第 24 週から患者報告が増え始め、第 30 週（8.75）をピークとした夏季の大きな流行があった。発生状況は全国と同様であった。



《地域別発生状況》

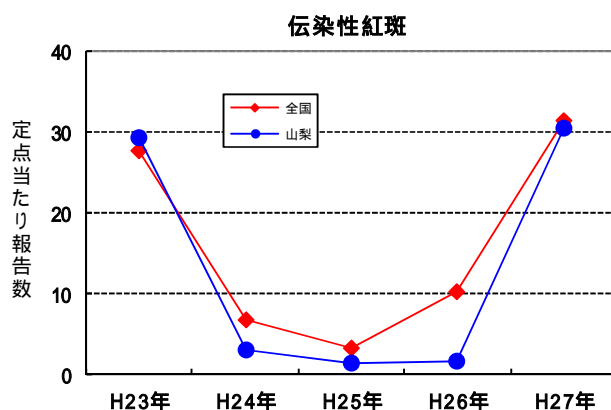
定点当たり報告数が最も多かったのは、富士東部保健所管内(124.00)であった。全ての保健所管内で大幅に報告数が増加した。



伝染性紅斑

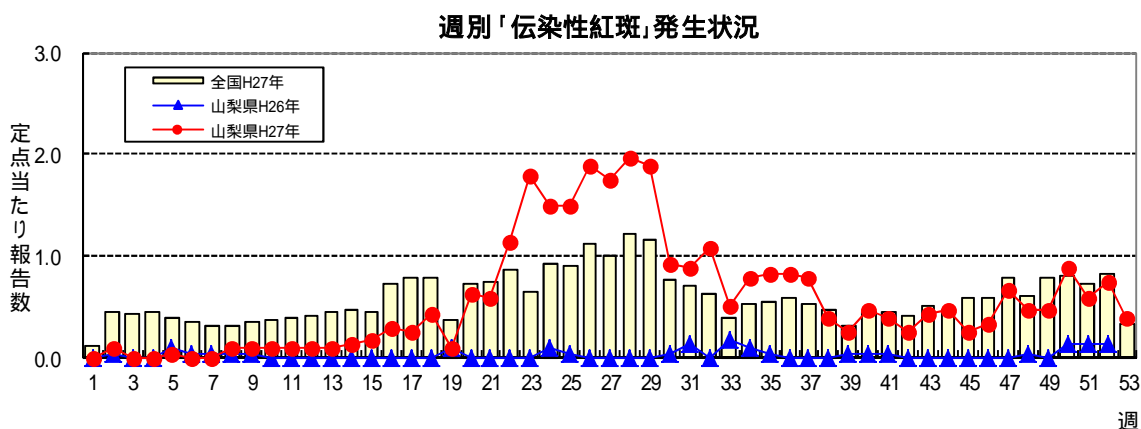
定点医療機関から 732 例（定点当たり報告数 30.50）の報告があり、前年（36 例）の約 20 倍と著しく増加した。

全国でも大幅な増加が見られ、最近 5 年間は全国と同様の推移をしている。



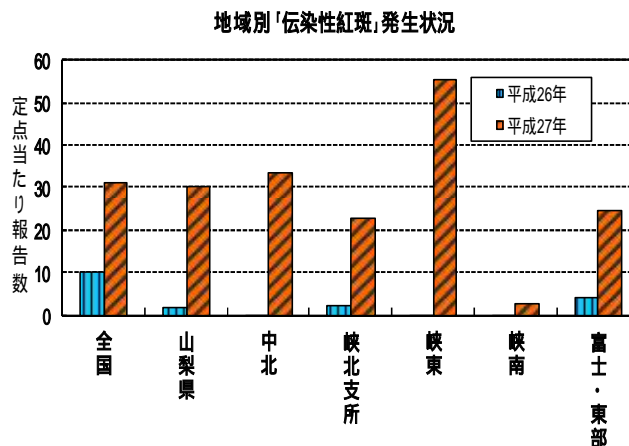
《週別発生状況》

第 20 週から患者報告が増え始め、第 28 週（1.98）をピークとした夏季の大きな流行があった。6 月から 8 月にかけては全国を上回る流行であった。



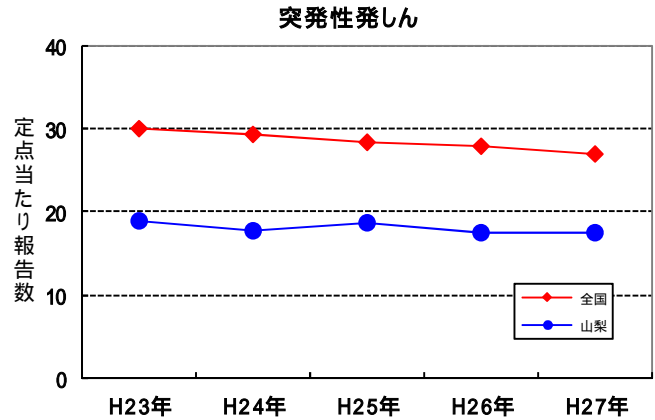
《地域別発生状況》

すべての地域で定点当たり報告数が大幅に増加した。最も多かったのは峡東保健所管内（55.5）で県内の全地域での大流行がうかがえた。



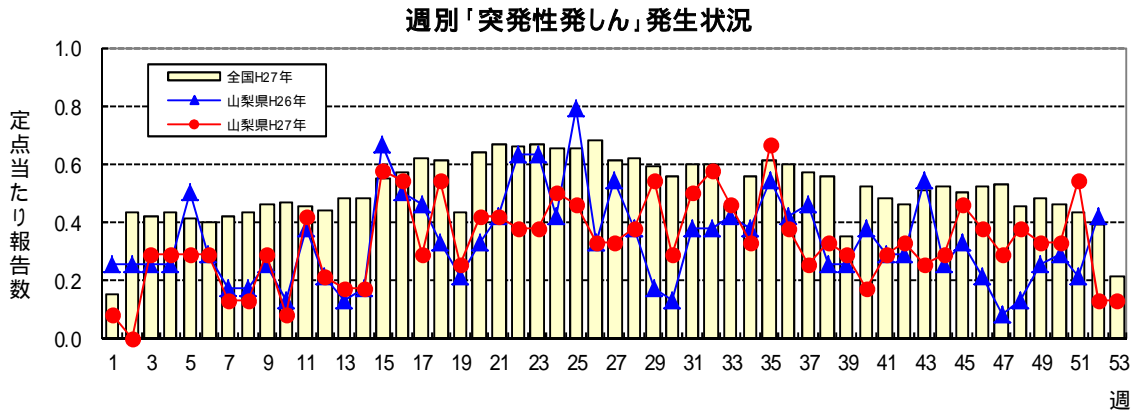
突発性発疹

定点医療機関から 421 例（定点当たり報告数 17.54）の報告があり、前年（418 例）よりやや増加したものの、最近 5 年間の状況はほぼ横ばいで、全国より少ない状況で同様の推移をしている。



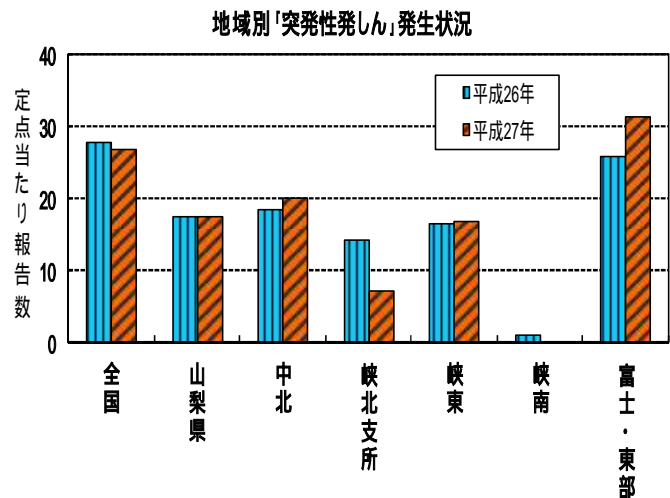
《週別発生状況》

第 35 週と第 51 週で全国の定点当たり報告数を上回ったが、流行はみられなかった。



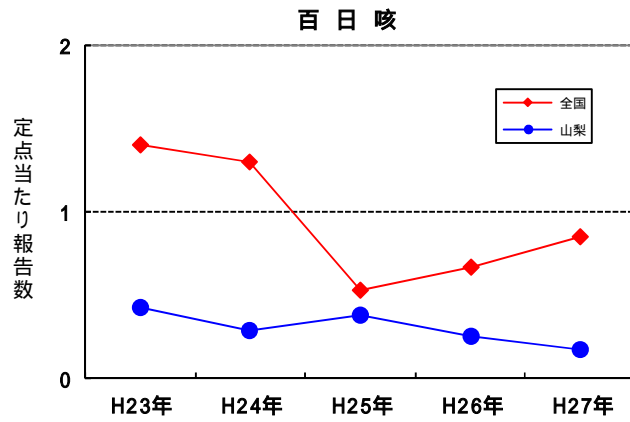
《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは富士・東部保健所管内(31.4)だったが、全ての保健所管内で前年とほぼ同様の発生状況であった。



百日咳

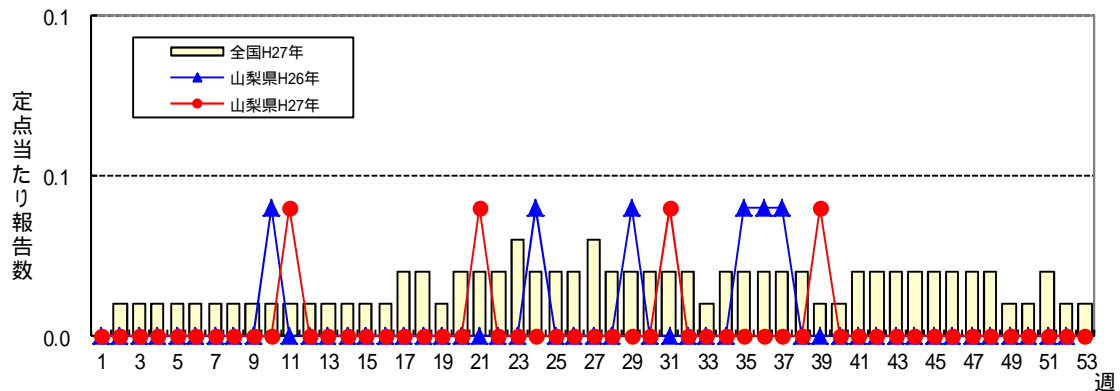
定点医療機関から4例（定点当たり報告数 0.17）の報告があり、前年（6例）より2例減少した。全国では2年続けて増加が見られたが、山梨県では減少傾向である。



《週別発生状況》

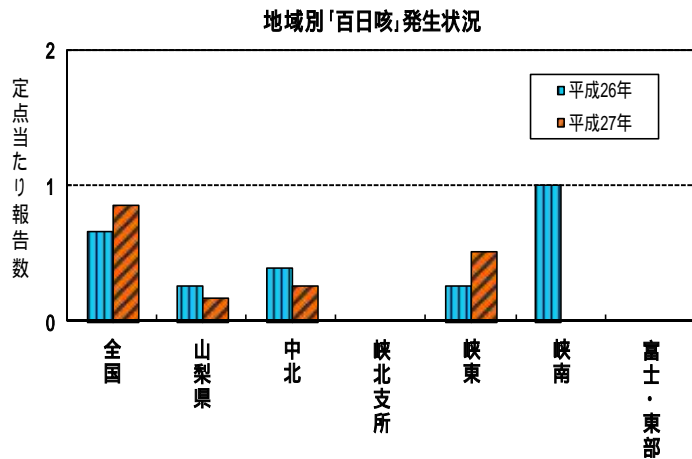
年間を通じて、流行は認められなかった。

週別「百日咳」発生状況



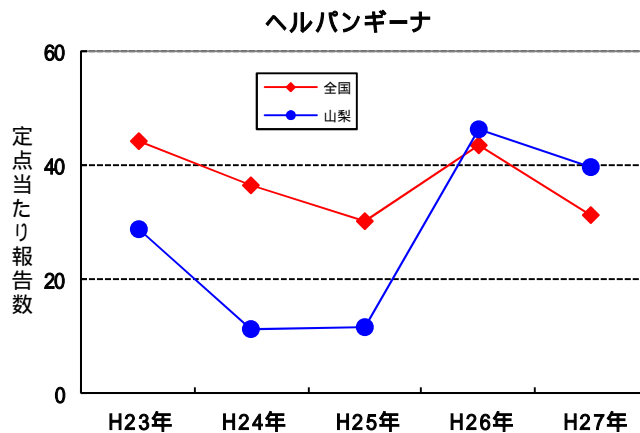
《地域別発生状況》

平成27年は中北保健所管内及び峡東保健所管内からそれぞれ2例のみの報告だった。



ヘルパンギーナ

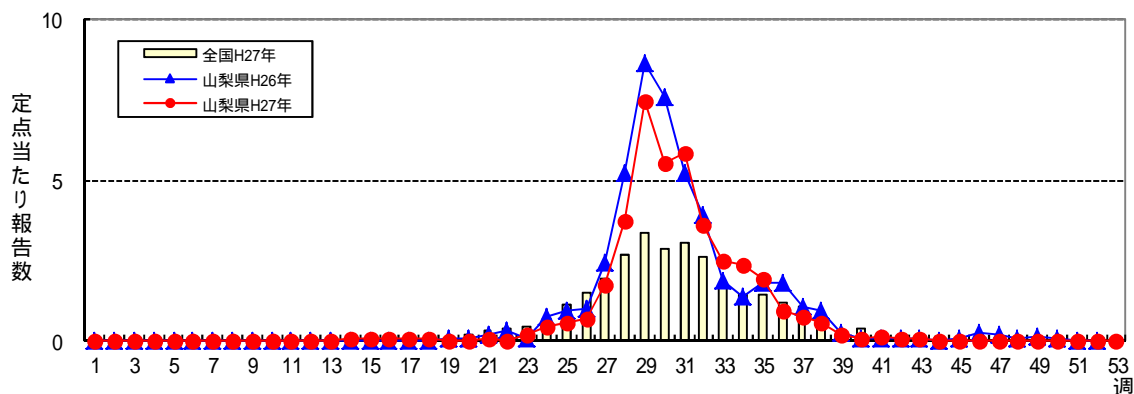
定点医療機関から 950 例（定点当たり報告数 39.58）の報告があり、前年（1,113 例）の 85%だったが、定点当たりの報告数は全国を上回った。



《週別発生状況》

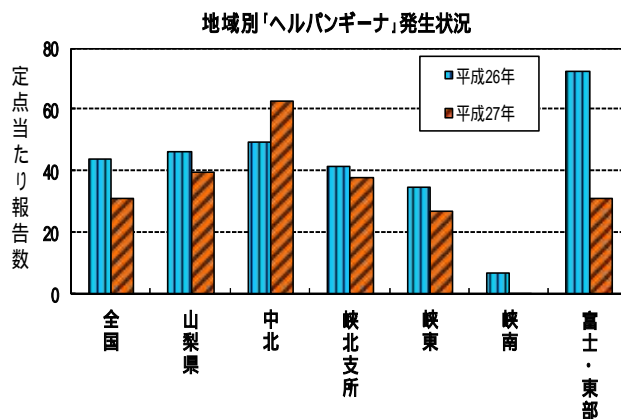
第 27 週から患者報告が増加し始め、第 35 週まで全国を上回る定点当たりの報告数だった。第 29 週にピーク(7.46)となり、警報レベルの 6 を超え、夏季の大きな流行が見られた。

週別「ヘルパンギーナ」発生状況



《地域別発生状況》

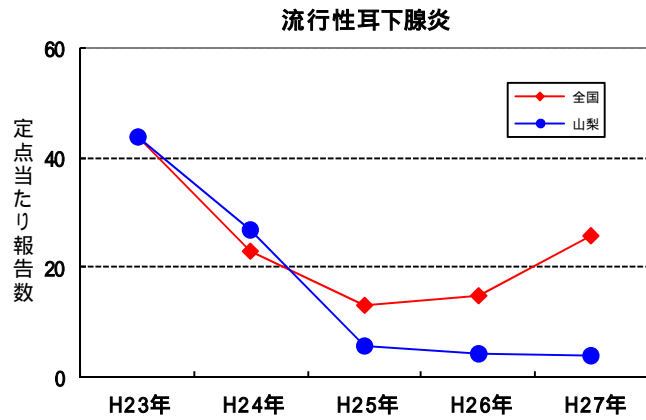
定点当たり報告数が最も多かったのは、中北保健所管内（62.38）で、峡南を除く全ての保健所管内で 20.0 以上の報告があった。



流行性耳下腺炎

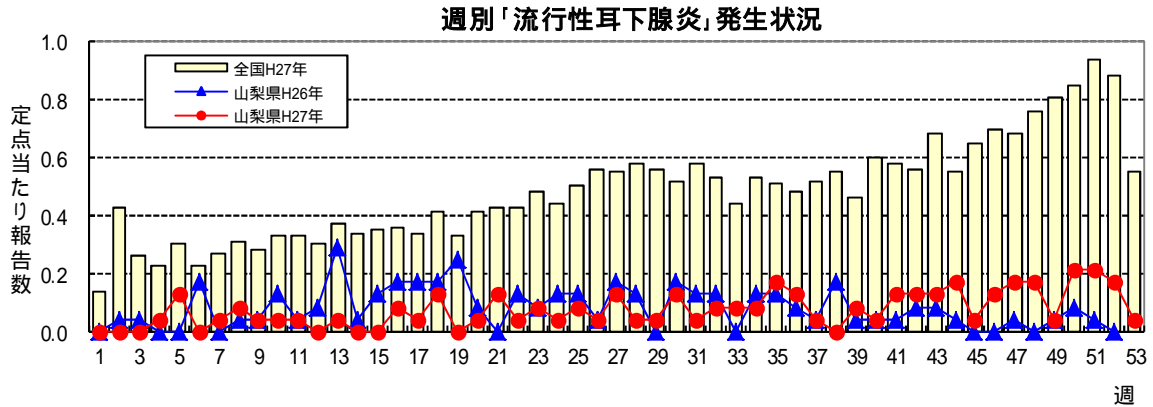
定点医療機関から 95 例（定点当たり報告数 3.96）の報告があり、前年（100 例）よりもやや減少した。

全国では昨年より増加傾向であるが、山梨県では最近 5 年間は減少傾向で、本年の報告数が最も少なかった。



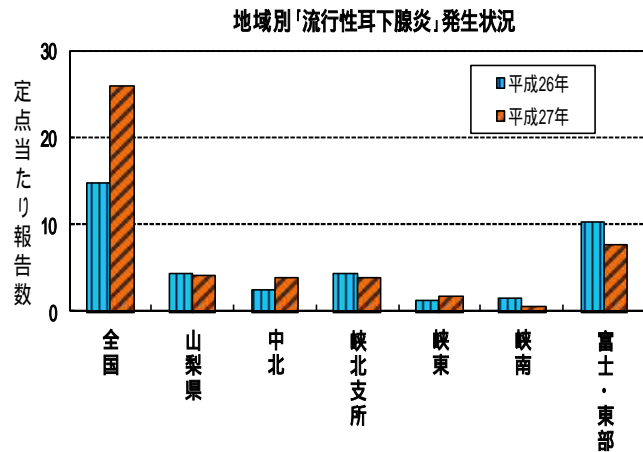
《週別発生状況》

発生状況のピークは特になく、年間を通して流行は見られなかった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは、富士・東部保健所管内（7.6）であった。



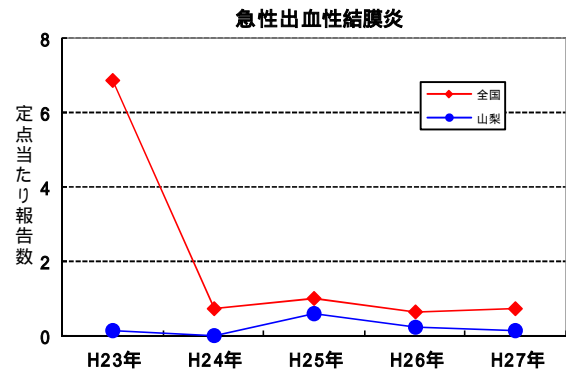
2 - 3 眼科定点から報告された感染症

眼科定点は、峡南保健所を除く 4 保健所管内に 9 定点あり、週報として報告される。

平成 27 年に報告された総数は 197 例で、急性出血性結膜炎 1 例、流行性角結膜炎 196 例であった。

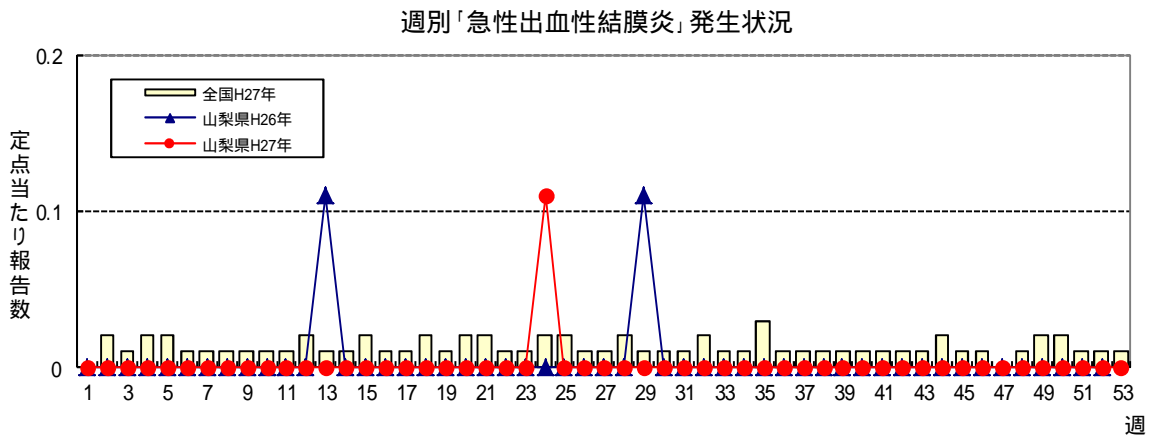
急性出血性結膜炎

定点医療機関からの報告は、1 例（定点当たり報告数 0.11）のみで前年（2 例）よりもさらに減少した。最近 5 年間ほぼ横ばいである。



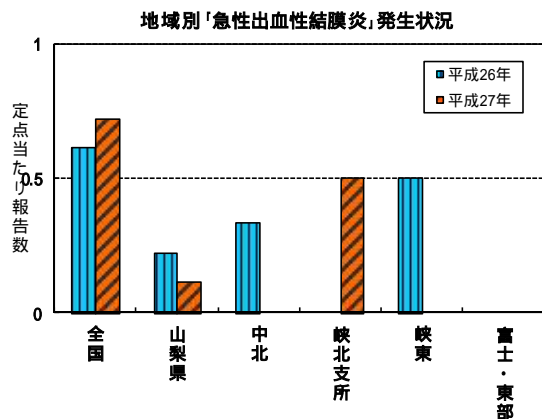
《週別発生状況》

第 24 週に 1 例の報告があった。



《地域別発生状況》

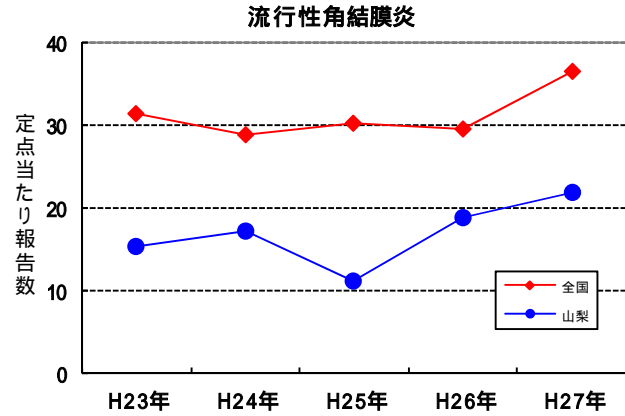
峡北支所管内から 1 例の報告があったのみである。



流行性角結膜炎

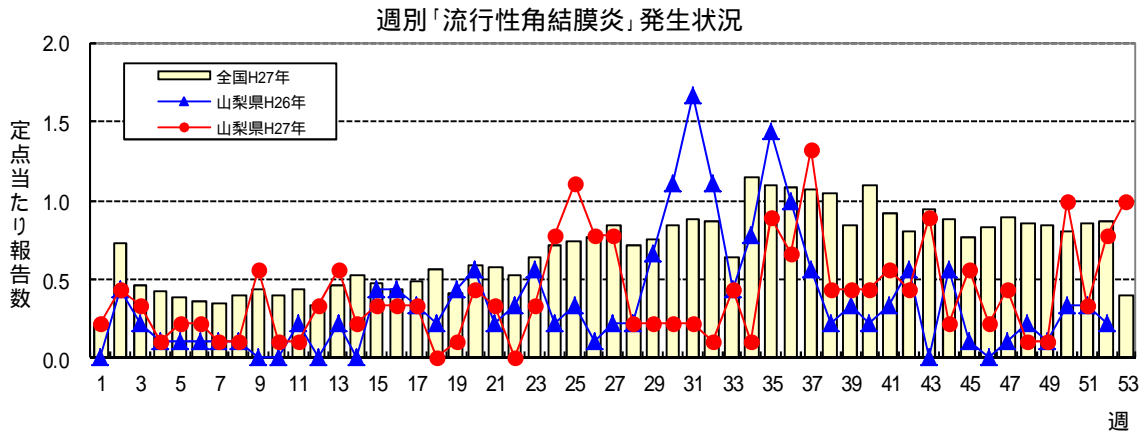
定点医療機関から 196 例（定点当たり報告数 21.78）の報告があり、前年（169 例）より増加した。

最近 5 年間の状況は、全国より報告数が少ないものの、やや増加傾向である。



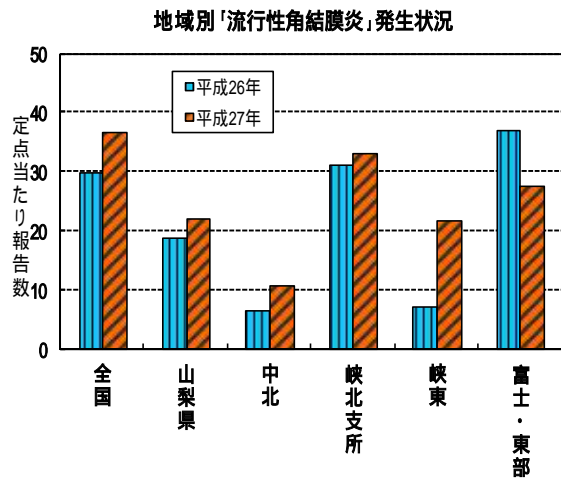
《週別発生状況》

第 25 週（1.11）及び第 37 週（1.33）の前後にやや発生があったが、年間を通して大きな流行は見られなかった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは峡北支所管内（33.0）で、富士東部保健所管内以外は前年を上回る報告だった。

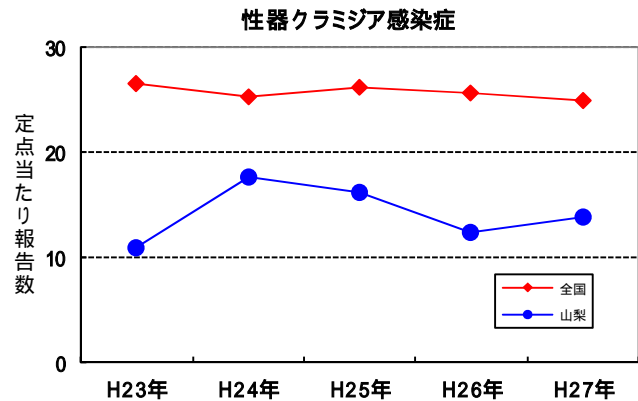


2 - 4 性感染症定点から報告された感染症

性感染症定点は、峡南保健所を除く4保健所管内に9定点あり月報として報告される。平成27年に報告された総数は252例で、前年(235例)よりもわずかに増加した。

性器クラミジア感染症

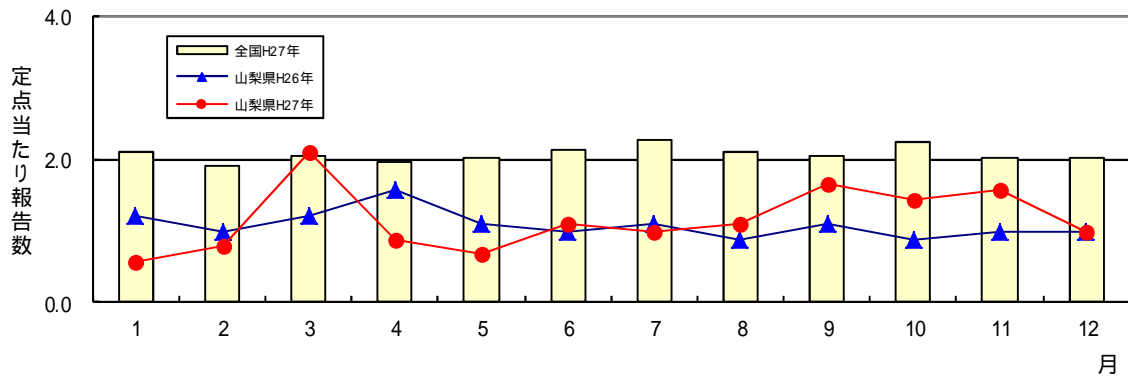
定点医療機関から125例(定点当たり報告数13.89)の報告があり、前年(112例)よりやや増加した。



《月別報告数》

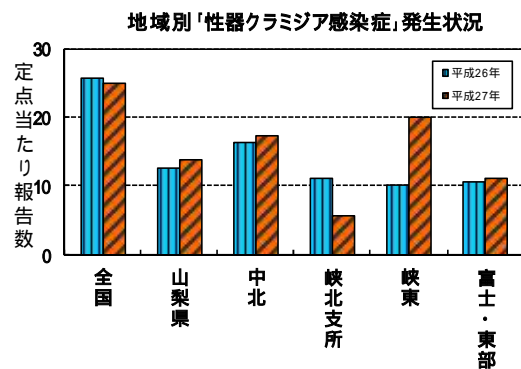
全国より少ない状況で、毎月報告があった。

月別「性器クラミジア感染症」発生状況



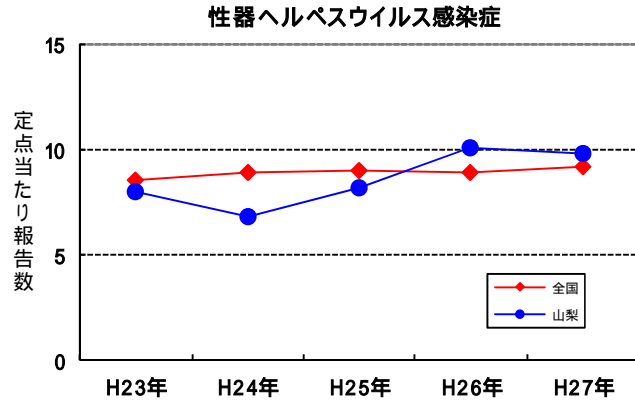
《域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは峡東保健所管内(20.00)で、定点医療機関がある保健所管内で峡北支所を除く3保健所管内でから10.0以上の報告があった。



性器ヘルペスウイルス感染症

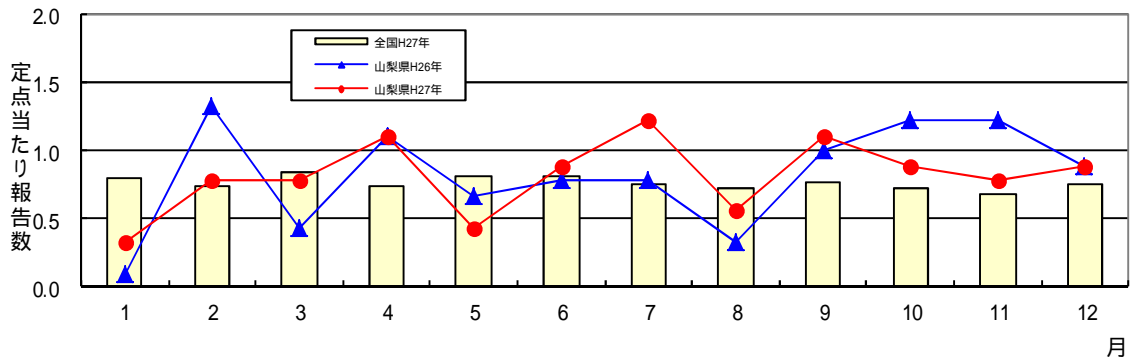
定点医療機関から 88 例（定点当たり報告数 9.78）の報告があり、前年(91 例)よりやや減少したが、定点当たり報告数は全国を上回った。



《月別発生状況》

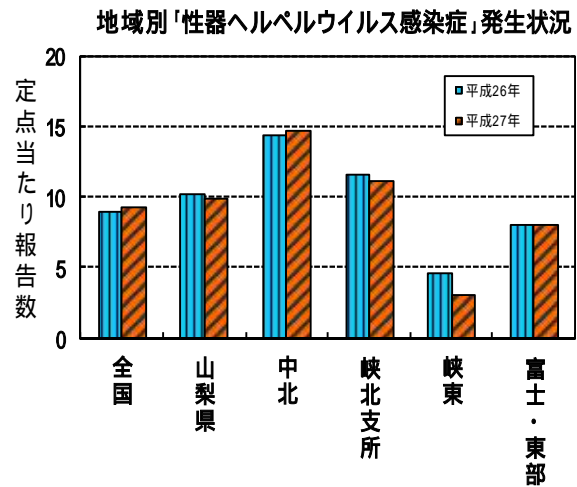
報告数の増減はあるが、毎月報告があり、全国の定点当たり報告数よりも多い月が7月あった。

月別「性器ヘルペスウイルス感染症」発生状況



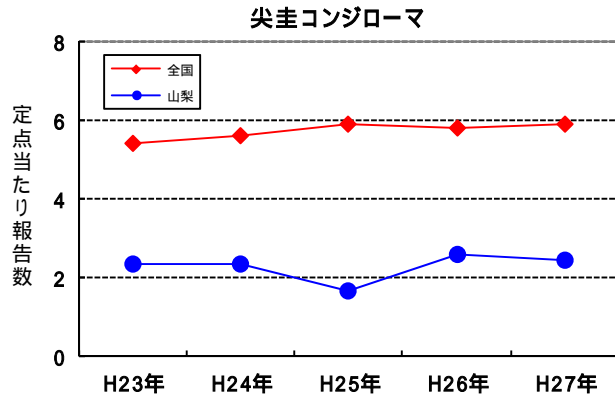
《地域別発生状況》

定点当たり報告数が多かったのは中北保健所管内（14.67）で、前年とほぼ同様の発生状況であった。



尖圭コンジローマ

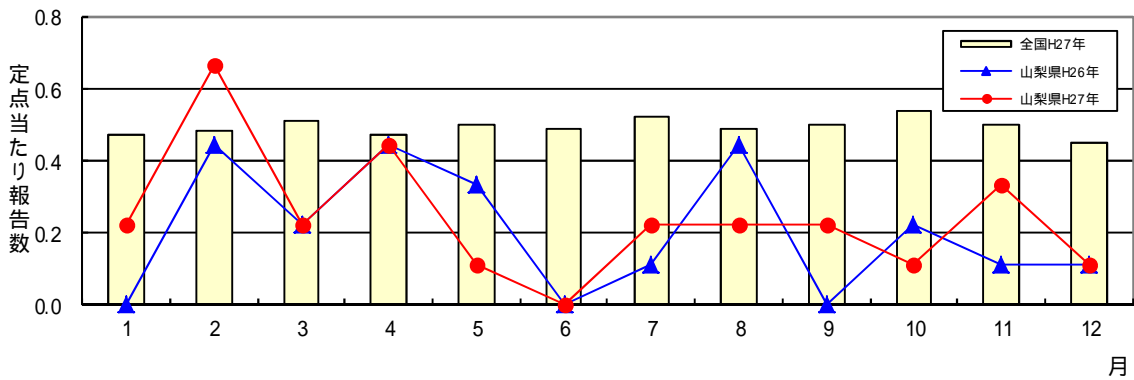
定点医療機関から22例(定点当たり報告数2.44)の報告があり、前年(23例)より1例の減少であった。最近5年間の状況を見ると、定点当たり2.00前後を推移している。



《月別発生状況》

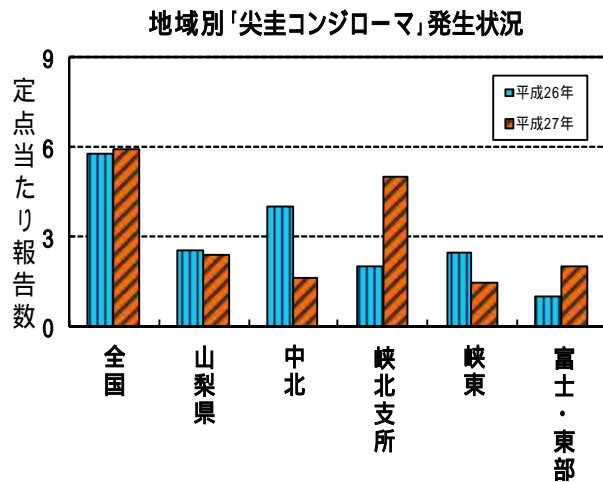
6月を除いて毎月患者の報告があった。

月別「尖圭コンジローマ」発生状況



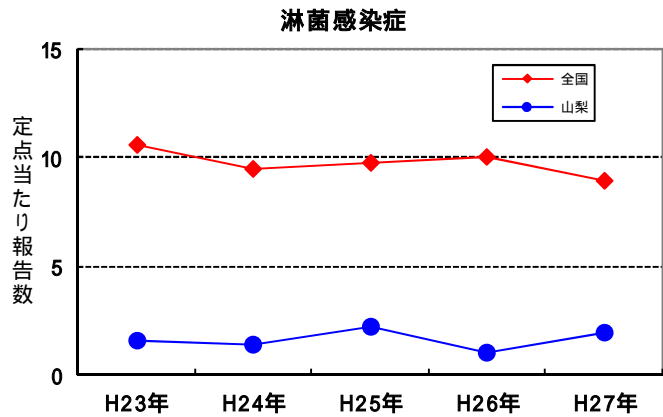
《地域別発生状況》

定点当たり報告数をもっとも多かったのは峡北支所管内(5.0)であった。



淋菌感染症

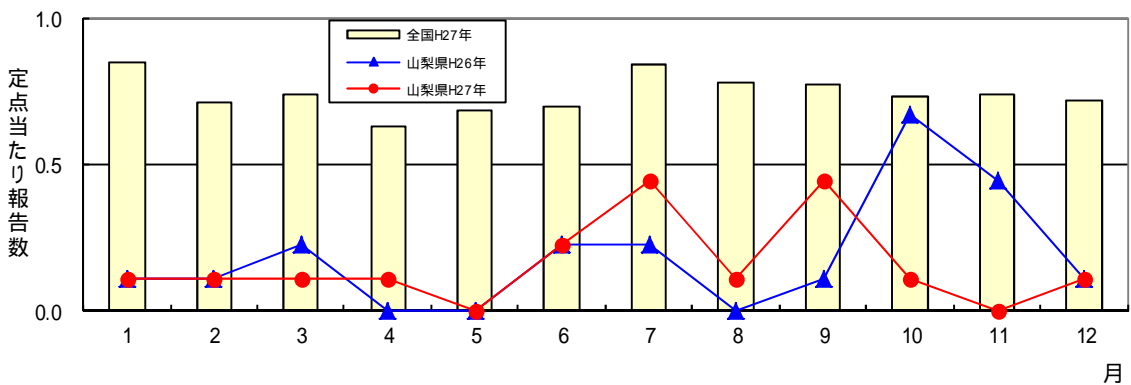
定点医療機関から17例(定点当たり報告数 1.89)の報告があり、前年(9例)よりも増加したが、最近5年間は横ばいの推移である。



《月別発生状況》

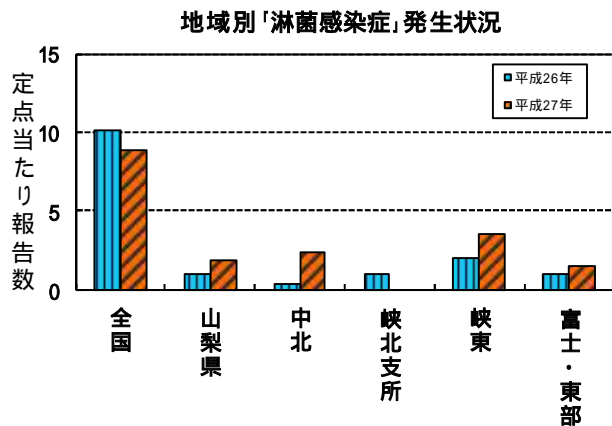
5月と11月を除いて毎月患者の報告があった。

月別「淋菌感染症」発生状況



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは峡東保健所管内(3.5)で、定点医療機関がある地域では峡北支所を除くすべての保健所管内から報告があった。



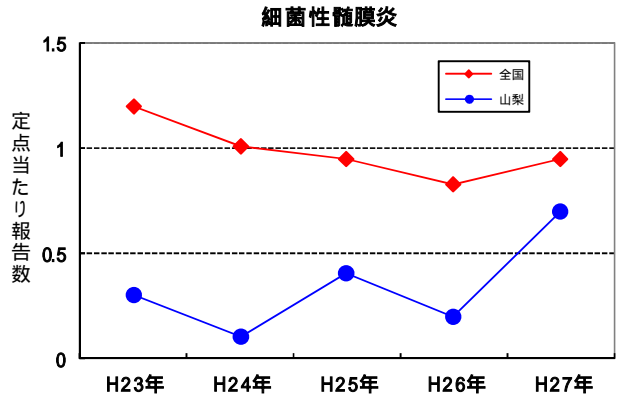
2 - 5 基幹定点から報告された感染症

基幹定点は県内全保健所管内にあり 10 定点である。細菌性髄膜炎(インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因とした場合を除く)、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎(オウム病は除く)、感染性胃腸炎(ロタウイルス)は週報として、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症は月報として報告される。

平成 27 年に基幹定点から報告された総数は 456 例(定点当たり報告数 45.60)で、報告数が多かったのは、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 180 例、マイコプラズマ肺炎 120 例であった。

細菌性髄膜炎

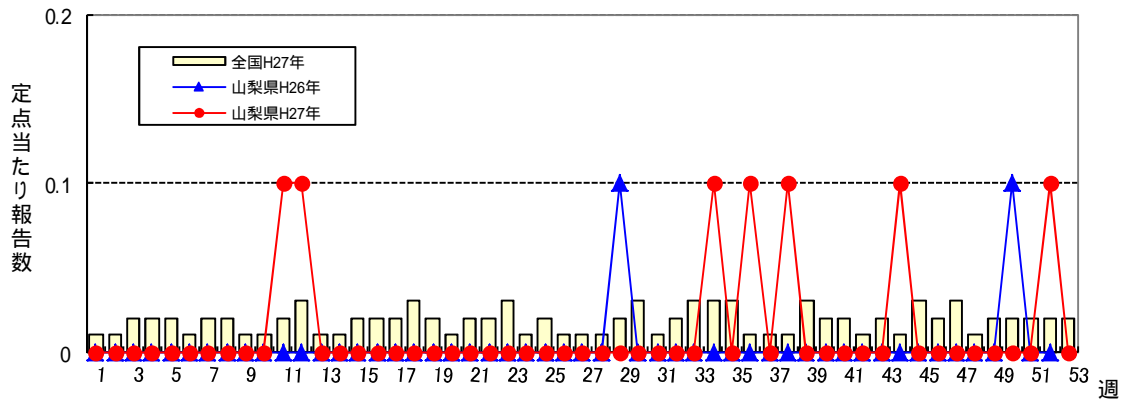
前年の報告は2例だったが、本年は定点医療機関から7例(定点当たり報告数0.70)の報告があった。



《週別発生状況》

第11,12,34,36,38,44,52週にそれぞれ1例の報告があった。

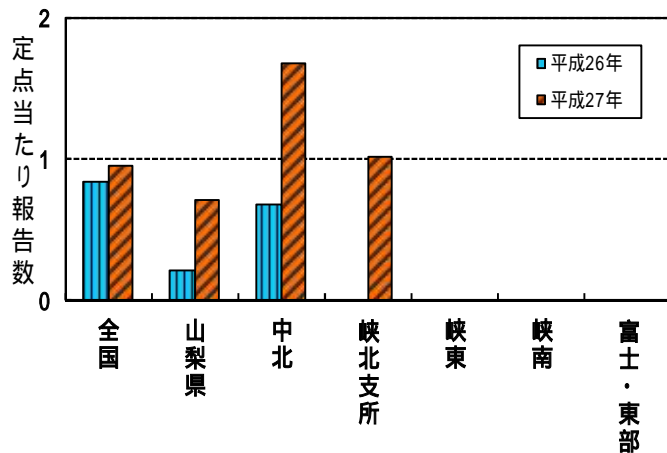
週別「細菌性髄膜炎」発生状況



《地域別発生状況》

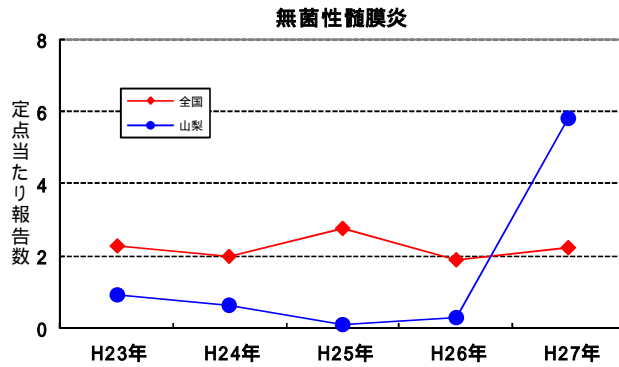
報告があったのは、中北保健所5例および峡北支所管内2例であった。

地域別「細菌性髄膜炎」発生状況



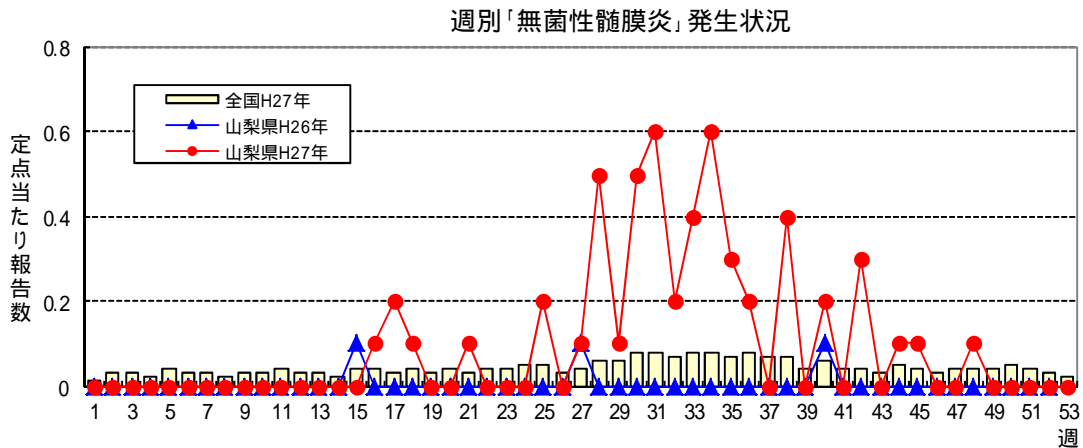
無菌性髄膜炎

定点医療機関から 58 例（定点当たり報告数 5.80）の報告があり、前年（3 例）の約 20 倍で、定点当たりの報告数も全国を大きく上回った。



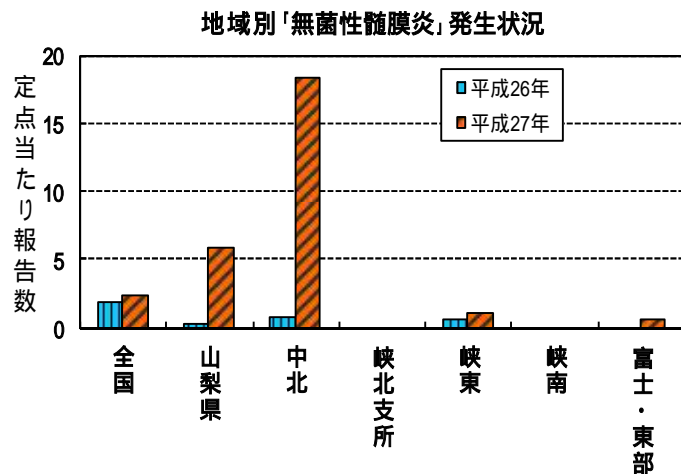
《週別発生状況》

第 16～48 週に報告があり、特に初夏から秋（第 25～42 週）の報告が多かった。



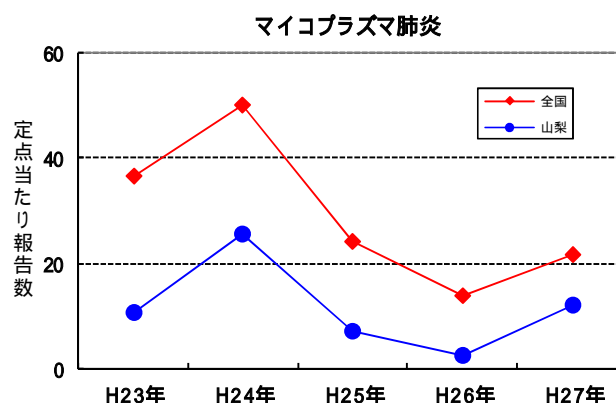
《地域別発生状況》

中北保健所管内からの報告（55 例）がほとんどであった。



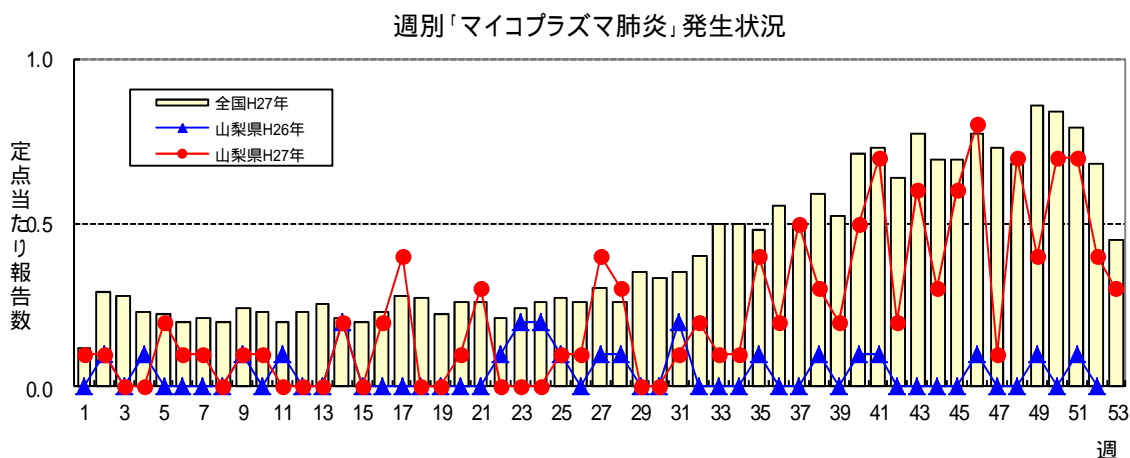
マイコプラズマ肺炎

定点医療機関から 120 例（定点当たり報告数 12.00）の報告があり、前年（23 例）の約 5 倍の増加で、全国でも同様の増加傾向を示した。最近 5 年間は全国の状況と同様の推移である。



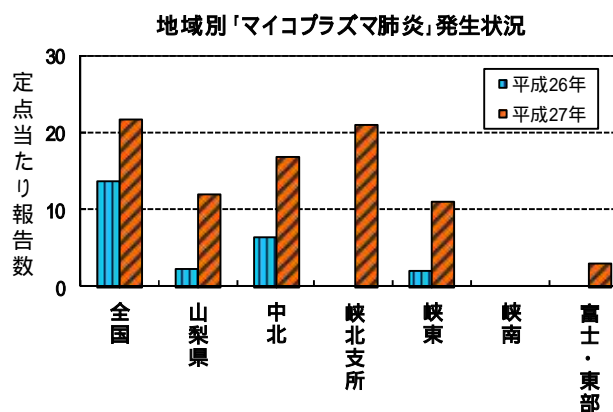
《週別発生状況》

年間を通して報告があったが、第 35 週から第 53 週の報告が多く全国の状況と同様の発生状況が見られた。



《地域別発生状況》

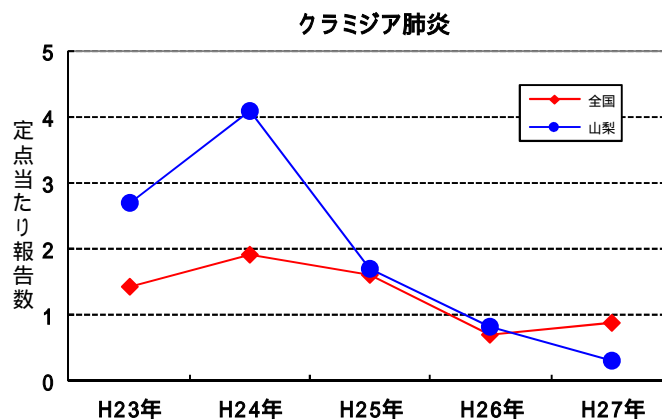
峡南保健所管内を除くすべての地域から前年を上回る報告があった。



クラミジア肺炎（オウム病を除く）

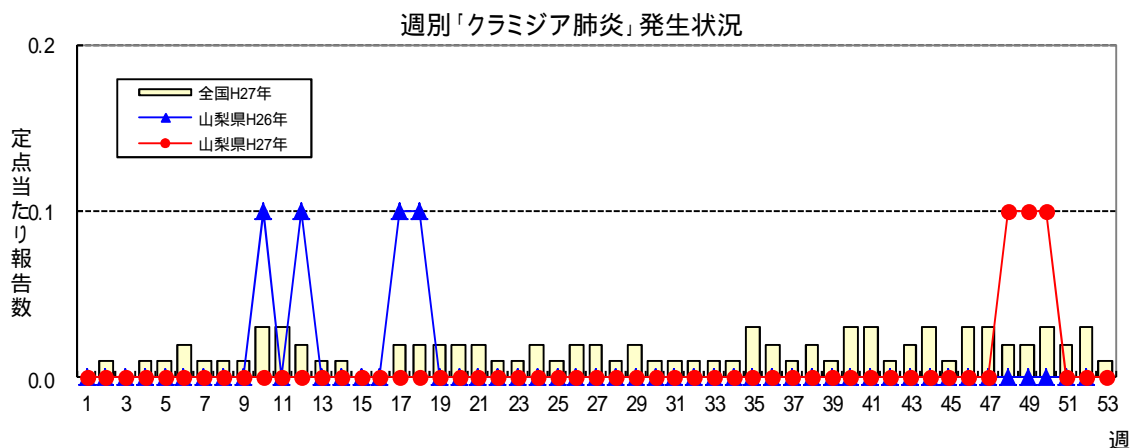
定点医療機関から3例（定点当たり報告数0.3）の報告があり、前年（8例）よりもさらに減少した。

最近5年間の状況は定点当たりの報告数が全国を上回っていたが、本年は全国の定点当たりの報告数より少なかった。



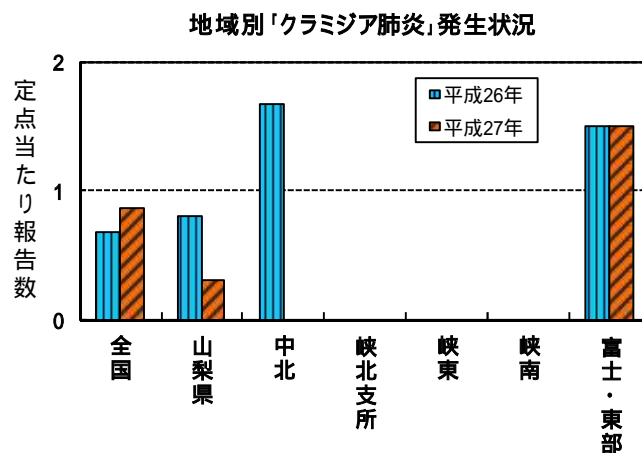
《週別発生状況》

第48,49,50週に各1例の報告があったのみである。



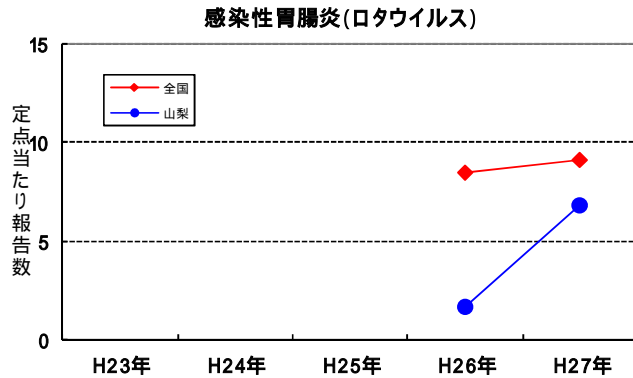
《地域別発生状況》

報告例は富士・東部保健所管内のみであった。



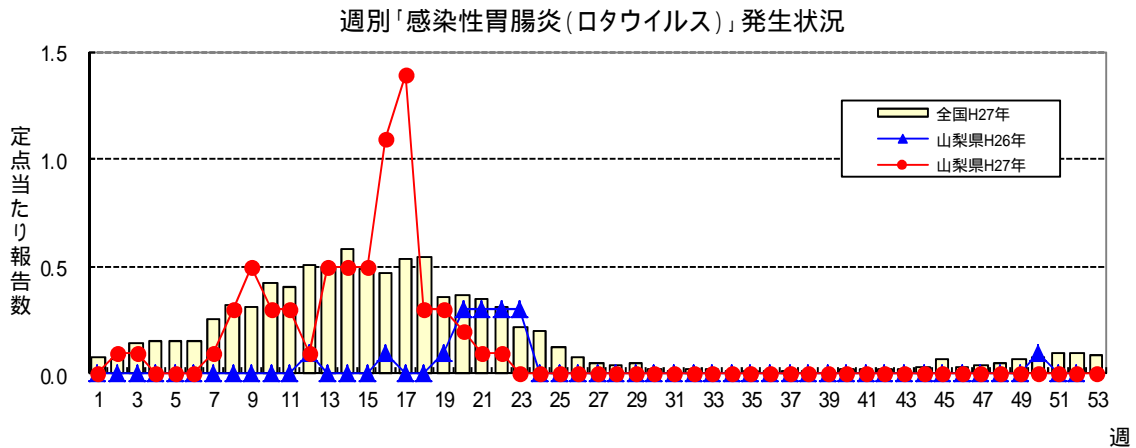
感染性胃腸炎（ロタウイルス）

病原体がロタウイルスであるものについて平成 25 年 10 月 14 日より基幹定点として指定された疾患で、本年は 68 例（定点当たり報告数 6.80）の報告があり、前年（16 例）の約 4 倍であった。



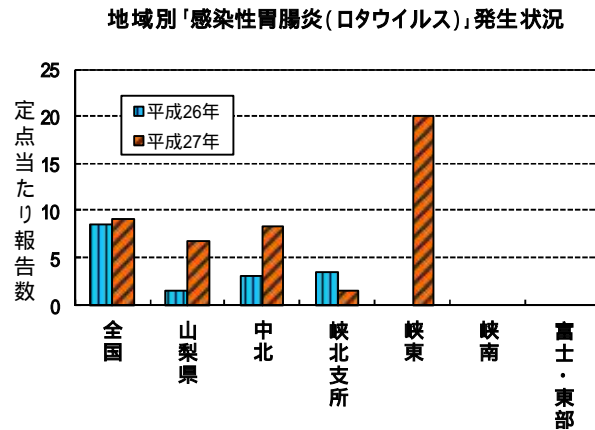
《週別発生状況》

第 2～22 週（1 月～5 月）に報告があり、第 16 週（1.1）、第 17 週（1.4）は全国の定点当たり報告数より多かった。



《地域別発生状況》

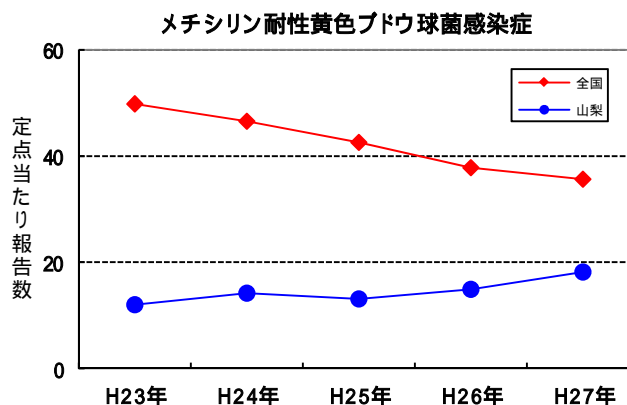
峡東保健所管内から全体の 2/3 をしめる 40 例（20.00）の報告があった。



メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

定点医療機関から 180 例（定点当たり報告数 18.00）の報告があり、前年（147 例）に比べて増加した。

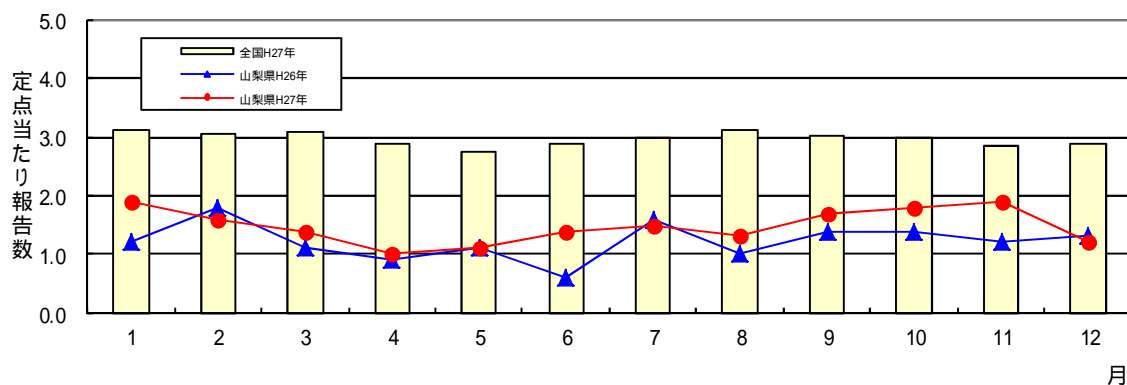
全国では減少傾向であるが、本県では微増の傾向である。



《月別発生状況》

全国より少ない状況ではあるが、前年とほぼ同様に毎月報告があった。

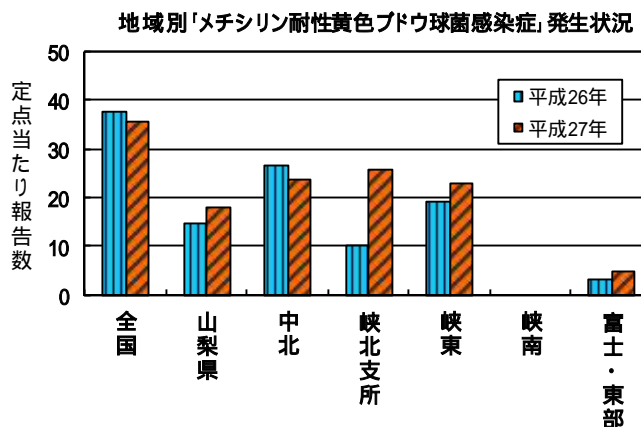
月別「メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症」発生状況



《地域別発生状況》

峡南保健所管内を除くすべての地域から報告があった。定点当たり報告数が最も多かった峡北支所管内（26.00）は前年の2倍以上の増加だった。

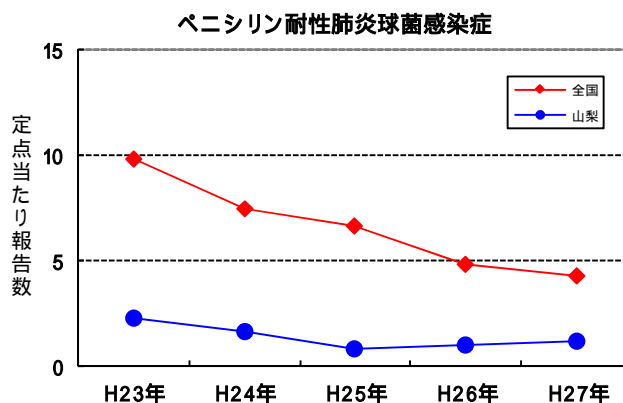
前年最も報告が多かった中北保健所内は、報告数が減少した。



ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

定点医療機関から12例（定点当たり報告数1.20）の報告があり前年（10例）より2例多い報告だった。

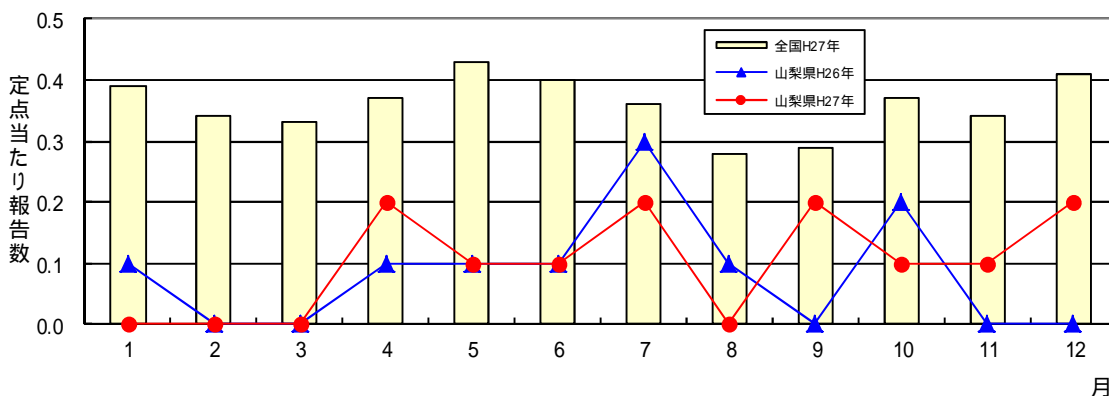
全国では減少傾向にあるが、本県ではほぼ横ばいの推移である。



《月別発生状況》

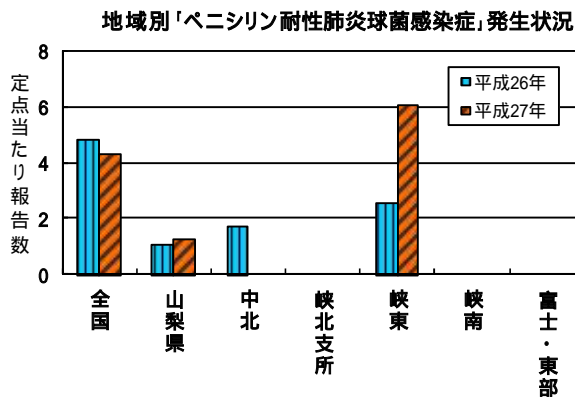
4月から7月、9月から12月に報告があった。

月別「ペニシリン耐性肺炎球菌感染症」発生状況



《地域別発生状況》

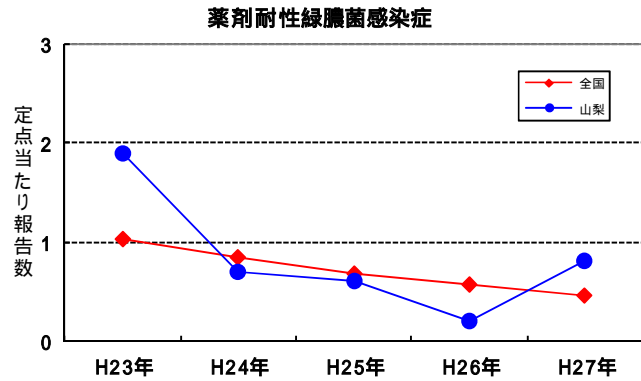
報告のあった12例はすべて峡東保健所管内からの報告であった。



薬剤耐性緑膿菌感染症

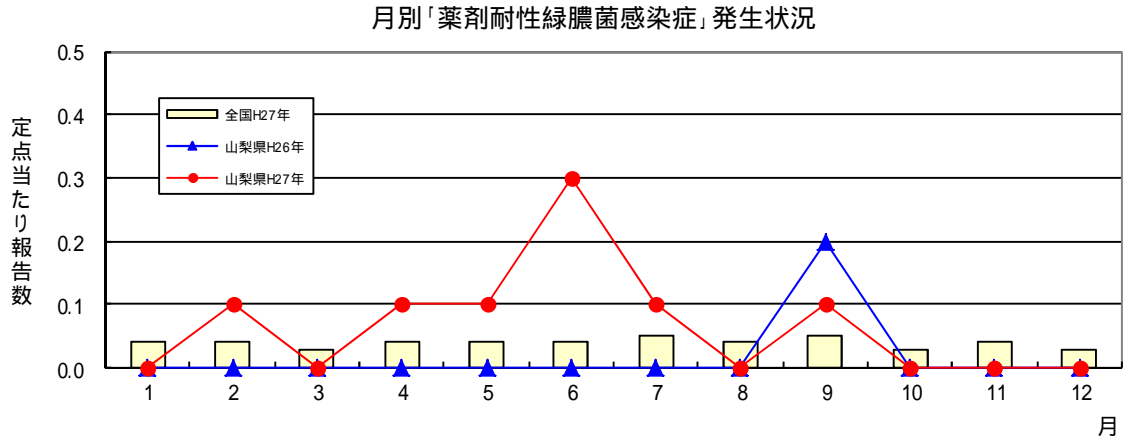
定点医療機関から 8 例（定点当たり報告数 0.80）の報告があった。

最近 5 年間の定点当たり報告数は H24 年から全国よりも少なかったが本年は全国を上回った。



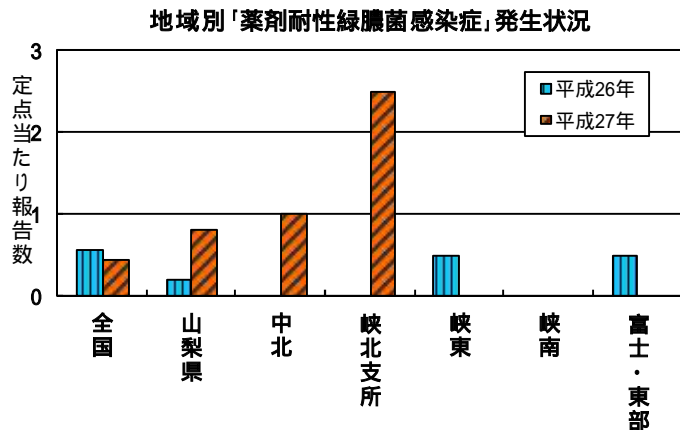
《月別発生状況》

2,4,5,7,9月に各1例、6月に3例の報告があった。



《地域別発生状況》

中北保健所、峡北支所管内のみからの報告だった。



病原微生物検出状況

1 ウイルス検出状況

県内 19 箇所の病原体定点及び集団発生事例において採取された 631 検体について P C R 法と細胞分離法により、310 検体（49.1%）からウイルスを検出した。

最も多く検出されたのはノロウイルス 212 件で全体の 68.4% を占め、次いでインフルエンザウイルスが 72 件（23.2%）であった。他にエンテロウイルス 10 件（3.2%）、A 群ロタウイルス 6 件（1.9%）、A 型肝炎ウイルス 3 件（1.0%）、アデノウイルスおよびデングウイルスがそれぞれ 2 件（0.6%）、麻疹ウイルス、パルボウイルス、サポウイルスがそれぞれ 1 件（0.2%）検出された。

インフルエンザウイルスの型別検出状況は、A(H3)香港型が 51 件（70.8%）、B 型山形系統が 13 件（18.1%）で、前年最も多く検出された A(H1)pdm09 は検出されなかった。1 月及び 2 月に検出されたウイルスは A(H3)香港型が圧倒的に多かったことから、患者報告数がピークとなった第 2～7 週（1 月上旬～2 月中旬）はこの型が流行の原因と思われた。

胃腸炎患者（病原体定点及び集団発生事例）から検出されたウイルスは、ノロウイルス G が 153 件（68.9%）、ノロウイルス G が 59 件（26.5%）、A 群ロタウイルス 6 件（2.7%）、A 型肝炎ウイルス 3 件（1.4%）及びサポウイルスが 1 件（0.5%）で、年間を通して検出された。

平成 27 年 月別ウイルス検出状況

検出ウイルス		計												
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
インフルエンザ ウイルス*	A(H3)香港型	22	12	11	3	-	1	1	1	-	-	-	-	51
	B 型ビクトリア系統	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	2
	B 型山形系統	-	-	-	9	1	3	-	-	-	-	-	-	13
	B 型(型別不明)	1	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
エンテロウイルス*	エコーウイルス30型	-	-	-	-	-	2	4	-	-	-	-	-	6
	コクサッキーウイルスA10	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	2
	型別不明	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	2
アデノウイルス*	型別不明	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	2
麻疹ウイルス	D8	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
パルボウイルス*	B19	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
デングウイルス*	1型	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
	4型	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
ノロウイルス*	G	2	2	-	-	12	20	-	-	-	1	3	19	59
	G II	51	29	37	11	-	-	-	8	-	1	1	15	153
サポウイルス*		-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
ロタウイルス*	A 群	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
A型肝炎ウイルス	1A	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
計		78	45	59	23	16	31	7	10	0	2	5	34	310

*PCR法で遺伝子検出。

ノロウイルス、インフルエンザウイルスについては集団発生を含む。

平成 27 年 疾患別ウイルス検出状況

疾 病	検 出 病 原 体	検出数
インフルエンザ様	インフルエンザウイルスA(H3)香港型	51
	インフルエンザウイルスB型(型別不明)	6
	インフルエンザウイルスB型ヒクトリア系統	2
	インフルエンザウイルスB型山形系統	13
咽頭炎	エンテロウイルス(エコーウイルス30型)	6
	エンテロウイルス(コクサッキーウイルスA10)	2
	エンテロウイルス(型別不明)	2
流行性角結膜炎	アデノウイルス(型別不明)	2
発疹様	麻疹ウイルスD8	1
	パルボウイルス B19	1
デング熱	デングウイルス1型	1
	デングウイルス4型	1
胃腸炎	ノロウイルスGI	59
	ノロウイルスGII	153
	サポウイルス	1
	ロタウイルス	6
	A型肝炎ウイルス	3
計		310

2 細菌検出状況

三類感染症の腸管出血性大腸菌感染症患者から分離された菌株について血清型及び毒素型の検査を実施したところ次のとおりであった。

分離月日	血清型	志賀毒素型	
3.25	O146:H21	Stx1	
4.14	OUT:H21		Stx2
5.24	O26:H11	Stx1	
5.24	O26:H11	Stx1	
7.8	O157:H7		Stx2
7.13	O157:H7	Stx1	Stx2
7.16	O157:HNM	Stx1	
7.15	O157:HNM	Stx1	Stx2
7.17	O157:H7	Stx1	Stx2
9.1	O157:H7	Stx1	Stx2
9.3	O157:H7	Stx1	Stx2
10.26	O165:HNM	Stx1	Stx2

:HNM :非運動性

參考資料

1 感染症発生動向調査の指定届出機関一覧

平成27年4月1日現在

	小	イ	眼	S	病	検	疑	医療機関名称	医療機関の 長(管理者)	主たる 診療科	郵便番号	住 所	電話番号
中 北							イ	隈部小児科医院	隈部 桂子	小	400-0855	甲府市中小河原1-14-3	055-243-0510
							小	今井小児科	今井 秀人	小	400-0854	甲府市中小河原町1589	055-241-5636
							小	小松小児科医院	小松 史俊	小	400-0062	甲府市池田1-11-7	055-251-6776
								里吉内科クリニック	佐々木勝弥	内	400-0822	甲府市里吉4-15-17	055-227-0028
								内科小児科横田医院	原 理	小	400-0041	甲府市上石田2-30-44	055-222-8710
								中島医院	中島 達人	小	400-0105	甲斐市下今井88-1	0551-28-2181
								森川医院	森川 一弘	小	409-3863	中巨摩郡昭和町河東中島1903	055-275-2070
								西野内科医院	西野 義久	小	409-3845	中央市山之神2389-1	055-273-6656
								竹居医院	斉藤真知子	内	400-0007	甲府市美咲1-11-15	055-252-3908
								桜林内科消化器科医院	桜林 忍	内	400-0058	甲府市宮原町1336-1	055-241-2619
								内科小児科小野医院	小野 隆彦	内	400-0065	甲府市賈川2-2-11	055-228-8822
								竜王共立診療所	城所 佑吉	内	400-0113	甲斐市富竹新田231-1	055-279-8611
								大沢医院	大澤 秀樹	内	400-0125	甲斐市長塚115-11	055-277-1020
							眼	佐々木眼科医院	佐々木隆弥	眼	400-0031	甲府市丸の内2-25-8	055-222-3222
								二宮眼科医院	二宮 守弘	眼	400-0008	甲府市緑が丘1-5-14	055-252-1003
								フルヤ眼科医院	古屋 和子	眼	409-3841	中央市布施1990カールピア1F	055-273-0660
								杉田産婦人科医院	杉田 茂仁	産・婦	400-0046	甲府市下石田2-7-17	055-228-8333
								鈴木泌尿器科医院	内山俊介	泌	400-0026	甲府市塩部1-11-12	055-251-7811
								竜王レディースクリニック	森澤 孝行	産・婦	400-0115	甲斐市篠原2199	055-279-4132
							基	市立甲府病院	小澤 克良	他	400-0832	甲府市増坪町366	055-244-1111
						基	地方独立行政法人山梨県病院機構山梨県立中央病院	山下 晴夫	他	400-8506	甲府市富士見1-1-1	055-253-7111	
							山梨大学医学部附属病院	藤井 秀樹	他	409-3898	中央市下河東1110	055-273-1111	
							井上内科小児科医院	井上 利男	内	400-0025	甲府市朝日1-4-12	055-251-7700	
							古屋クリニック	古屋 秀夫	内	409-3845	中央市山之神1533-21	055-274-3773	
	8	13	3	3	3	7	18						
峡 北 支 所							イ	三井医院	三井 丈夫	小	407-0024	韮崎市本町1-11-8	0551-22-0845
								にこにこクリニック こでら小児科	小寺 浩司	小	407-0033	韮崎市龍岡町下條南割1045	0551-23-6677
								高畑内科小児科医院	高畑 賢司	小	400-0422	南アルプス市飯野2753	055-283-2955
								小池医院	小池 順	小	407-0024	南アルプス市小笠原1717	055-282-0304
								たかね内科小児科クリニック	浅川 健一	小	408-0002	北杜市高根町村山北割1966	0551-47-4110
								北杜市立白州診療所	武田 盛夫	内	408-0315	北杜市白州町白須1341	0551-35-2009
								本町クリニック	橋本 辰彦	内	407-0024	韮崎市本町2-19-3	0551-22-8741
								志村内科医院	志村 政文	内	400-0422	南アルプス市荊沢410	055-282-3646
								千野眼科医院	千野 一	眼	407-0024	韮崎市本町1-5-26	0551-22-0038
								堀内眼科	堀内 二彦	眼	400-0306	南アルプス市小笠原386	055-282-0229
								飯野産婦人医院	飯野 善朗	婦	407-0024	韮崎市本町2-14-12	0551-22-1074
								女性クリニック秋山医院	秋山 尚美	眼	400-0221	南アルプス市在家塚155	055-281-2017
							基	巨摩共立病院	深沢 真吾	他	400-0398	南アルプス市桃園340	055-283-3131
								北杜市立甲陽病院	飯塚 秀彦	他	408-0034	北杜市長坂町大八田3954	0551-32-3221
		5	8	2	2	2	3	10					

	小	イ	眼	S	病	検	疑	医療機関名称	医療機関の 長(管理者)	主たる 診療科	郵便番号	住 所	電話番号
峡東								篠原医院	篠原 文雄	内・小	406-0805	笛吹市御坂町乗合168	055-262-3006
								三枝クリニック	三枝 芳樹	内・小	406-0043	笛吹市石和町河内37-2	055-261-2555
								あめみや医院	雨宮 秀樹	内・小	404-0046	甲州市塩山上井尻1419	0553-32-5511
							イ	池田内科小児科医院	池田 康子	内・小	409-1300	甲州市勝沼町勝沼2961	0553-44-0613
								中央内科クリニック	横森 宣彦	内	405-0018	山梨市上神内川47	0553-22-1008
								飯島医院	飯島 昭彦	内	405-0006	山梨市小原西5	0553-22-0015
								黒沢内科	黒沢 明彦	内	406-0031	笛吹市石和町市部716-5	055-263-3400
								古川眼科医院	古川 明博	眼	405-0006	山梨市小原西196-2	0553-22-0159
								古屋眼科	古屋 徹	眼	406-0031	笛吹市石和町市部822-41	055-262-1233
								加納岩総合病院	関川 敬義	他	405-0018	山梨市上神内川1309	0553-22-2511
								長坂クリニック	長坂 正仁	産・婦	406-0033	笛吹市石和町小石和2645	055-262-1103
							基	山梨厚生病院	千葉 成宏	他	405-0033	山梨市落合860	0553-23-1311
							基	甲州リハビリテーション病院	浅賀 嘉之	他	406-0032	笛吹市石和町四日市場2031	055-262-3121
	4	7	2	2	2	3	9						
峡南								溝部医院	溝部 政史	内	409-3600	西八代郡市川三郷町市川大門1235	055-272-0003
								南部町国民健康保険診療所	市川 万邦	内	409-2212	南巨摩郡南部町南部8050	05566-4-3117
								飯富病院	朝比奈利明	他	409-3423	南巨摩郡身延町飯富1628	0556-42-2322
							基	峡南医療センター企業団富士川病院	中島 育昌	他	400-0601	南巨摩郡富士川町鯉沢340-1	0556-22-3135
	2	3	0	0	1	2	4						
富士・東部								吉田医院	刑部 利雄	小	403-0005	富士吉田市上吉田3857	0555-22-0142
								富士吉田市立病院	樫本 温	他	403-0005	富士吉田市上吉田6530	0555-22-4111
								小林眼科医院	小林 寛	眼	403-0017	富士吉田市新西原1-3-18	0555-24-1166
							小	武井クリニック	武井 治郎	小	402-0025	都留市法能669	0554-45-6811
								都留市立病院	保坂 稔	他	402-0056	都留市つる5-1-55	0554-45-1811
								野村眼科医院	野村 道子	眼	402-0005	都留市四日市場8-6	0554-20-8070
								堀田医院	堀田 ふつみ	内	401-0013	大月市大月1-5-20	0554-22-0113
								武者医院	武者 吉英	産・婦	401-0013	大月市大月1-15-18	0554-23-1166
								大月市立中央病院	新田 澄郎	他	401-0015	大月市大月町花咲1225	0554-22-1251
								うえのクリニック	上野 雄大	内	409-0121	上野原市モアしおつ3-22-5	0554-66-3690
								しまだ医院	小田切 理純	内	403-0022	南都留郡西桂町小沼1710-1	0555-25-2388
								宝司医院	梶原 喜昭	小	401-0302	南都留郡富士河口湖町小立1838	0555-72-1502
								渡辺医院	渡辺 泰猛	産・婦	401-0301	南都留郡富士河口湖町船津1496	0555-72-2835
								いしはらクリニック	石原 俊秀	小	401-0301	南都留郡富士河口湖町船津584-1	0555-72-5666
								富士ニココクリニック	渡邊 善一郎	内	401-0301	南都留郡富士河口湖町船津1287	0555-72-3370
	5	9	2	2	2	4	11						

2 全数把握対象感染症の報告数

疾 病	報 告 数		疾 病	報 告 数	
	全 国	山 梨		全 国	山 梨
1類感染症			ニパウイルス感染症	-	-
エボラ出血熱	-	-	日本紅斑熱	213	-
クリミア・コンゴ出血熱	-	-	日本脳炎	2	-
痘そう	-	-	ハンタウイルス肺症候群	-	-
南米出血熱 ^{*1}	-	-	Bウイルス病	-	-
ペスト	-	-	鼻疽 ^{*1}	-	-
マールブルグ病	-	-	ブルセラ症	5	-
ラッサ熱	-	-	ベネズエラウマ脳炎 ^{*1}	-	-
2類感染症			ヘンドラウイルス感染症 ^{*1}	-	-
急性灰白髄炎	-	-	発しんチフス	-	-
結核 ^{*1}	24,526	114	ボツリヌス症	1	-
ジフテリア	-	-	マラリア	41	-
重症急性呼吸器症候群 ^{*2*3} (SARSコロナウイルスに限る)	-	-	野兔病	2	-
中東呼吸器候群 ^{*12} (MERSコロナウイルスに限る)	-	-	ライム病	9	-
鳥インフルエンザ(H5N1) ^{*5}	-	-	リッサウイルス感染症	-	-
鳥インフルエンザ(H7N9) ^{*12}	-	-	リフトバレー熱 ^{*1}	-	-
3類感染症			類鼻疽 ^{*1}	1	-
コレラ ^{*2}	7	-	レジオネラ症	1,592	12
細菌性赤痢 ^{*2}	156	2	レプトスピラ症	33	-
腸管出血性大腸菌感染症	3,567	21	ロッキー山紅斑熱 ^{*1}	-	-
腸チフス ^{*2}	37	-	5類感染症		
バラチフス ^{*2}	32	1	アメーバ赤痢	1,108	3
4類感染症			ウイルス性肝炎（E型肝炎 及びA型肝炎を除く）	254	2
E型肝炎	212	1	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 ¹¹	1,680	10
ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	-	-	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西 部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウ マ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ 脳炎及びリフトバレー熱を除く) ^{*3}	511	-
A型肝炎	244	4	クリプトスポリジウム症	15	-
エキノコックス症	25	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	191	3
黄熱	-	-	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	434	4
オウム病	5	-	後天性免疫不全症候群	1,431	6
オムスク出血熱 ^{*1}	-	-	ジアルジア症	80	-
回帰熱	4	-	侵襲性インフルエンザ菌感染症 ^{*8}	252	1
キャサナル森林病 ^{*1}	-	-	侵襲性髄膜炎菌感染症 ^{*8}	34	-
Q熱	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症 ^{*8}	2,402	14
狂犬病	-	-	水痘(入院例) ¹¹	314	1
コクシジオイデス症	3	-	先天性風しん症候群	-	-
サル痘	-	-	梅毒	2,697	9
重症熱性血小板減少症候群 ^{*7} (SFTSウイルスに限る)	60	-	播種性クリプトコックス症 ¹¹	119	3
腎症候性出血熱	-	-	破傷風	120	1
西部ウマ脳炎 ^{*1}	-	-	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-
ダニ媒介脳炎 ^{*1}	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	66	-
炭疽	-	-	風しん ^{*4}	163	-
チクングニア熱 ^{*6}	17	-	麻しん ^{*4}	35	1
つつが虫病	419	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症 ¹¹	37	-
デング熱	293	2	新型インフルエンザ等感染症^{*5}		
東部ウマ脳炎 ^{*1}	-	-	新型インフルエンザ	-	-
鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く) ^{*10}	-	-	再興型インフルエンザ	-	-

2 - 1 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律等の改正に伴う変更の経緯

平成19年4月1日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律改正に伴う変更点

*1：新規追加された疾病 *2：類型変更された疾病 *3：名称変更された疾病

平成20年1月1日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則改正に伴う変更点

*4：定点把握から全数把握に変更された疾病

平成20年5月12日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則改正に伴う変更点

*5：新規追加された疾病

平成23年2月1日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行令一部改正に伴う変更点

*6：新規追加された疾病

平成25年3月4日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行令一部改正に伴う変更点

*7：新規追加された疾病

平成25年4月1日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則一部改正に伴う変更点

*8：新規追加された疾病

平成25年5月6日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行令一部改正に伴う変更点

*9：新規追加された疾病 *10 名称変更された疾病

平成26年9月19日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則一部改正に伴う変更点

*11：新規追加された疾病

平成26年11月21日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律一部改正に伴う変更点

*12：類型変更された疾病(施行は平成27年1月21日)

3 定点把握対象感染症の報告数と定点当たり報告数

疾 病	全 国		山 梨 県	
	報告数	定点当たり 報告数	報告数	定点当たり 報告数
RSウイルス感染症	120,049	38.16	544	22.67
咽頭結膜熱	72,150	22.93	196	8.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	401,274	127.55	2,827	117.79
感染性胃腸炎	987,912	314.02	6,026	251.08
水痘	77,614	24.67	358	14.92
手足口病	381,720	121.34	1,766	73.58
伝染性紅斑	98,521	31.32	732	30.50
突発性発しん	84,957	27.00	421	17.54
百日咳	2,675	0.85	4	0.17
ヘルパンギーナ	98,212	31.22	950	39.58
流行性耳下腺炎	81,046	25.76	95	3.96
小児科定点(週報) 計	2,406,130	764.82	13,919	579.96
インフルエンザ	1,169,041	237.42	8,805	220.13
インフルエンザ定点(週報) 計	1,169,041	237.42	8,805	220.13
急性出血性結膜炎	494	0.72	1	0.11
流行性角結膜炎	25,037	36.44	196	21.78
眼科定点(週報) 計	25,531	37.16	197	21.89
性器クラミジア感染症	24,450	24.95	125	13.89
性器ヘルペスウイルス感染症	8,974	9.16	88	9.78
尖圭コンジローマ	5,806	5.92	22	2.44
淋菌感染症	8,698	8.88	17	1.89
STD定点(月報) 計	47,928	48.91	252	28.00
細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因とした場合を除く)	452	0.95	7	0.70
無菌性髄膜炎	1,069	2.24	58	5.80
マイコプラズマ肺炎	10,367	21.73	120	12.00
クラミジア肺炎(オウム病は除く)	412	0.86	3	0.30
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	4,350	9.12	68	6.80
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	17,057	35.61	180	18.00
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2,057	4.29	12	1.20
薬剤耐性緑膿菌感染症	217	0.45	8	0.80
基幹定点(週報、月報) 計	35,981	75.25	456	45.60

4 平成 26 年と 27 年の定点当たり報告数の比較

疾 病	全 国			山 梨			山梨/全国	
	H26年 2014・A	H27年 2015・B	B/A	H26年 2014・C	H27年 2015・D	D/C	26年C/A	27年D/B
RSウイルス感染症	31.93	38.16	1.20	14.88	22.67	1.52	0.47	0.59
咽頭結膜熱	25.12	22.93	0.91	17.33	8.17	0.47	0.69	0.36
A群溶血性 連鎖球菌咽頭炎	96.78	127.55	1.32	66.88	117.79	1.76	0.69	0.92
感染性胃腸炎	319.68	314.02	0.98	264.17	251.08	0.95	0.83	0.80
水痘	50.15	24.67	0.49	24.50	14.92	0.61	0.49	0.60
手足口病	26.62	121.34	4.56	9.96	73.58	7.39	0.37	0.61
伝染性紅斑	10.29	31.32	3.04	1.50	30.50	20.33	0.15	0.97
突発性発しん	27.99	27.00	0.96	17.42	17.54	1.01	0.62	0.65
百日咳	0.66	0.85	1.29	0.25	0.17	0.68	0.38	0.20
ヘルパンギーナ	43.59	31.22	0.72	46.38	39.58	0.85	1.06	1.27
流行性耳下腺炎	14.74	25.76	1.75	4.17	3.96	0.95	0.28	0.15
小児科定点 計	647.55	764.82	1.18	467.44	579.96	1.24	0.72	0.76
インフルエンザ	354.44	237.42	0.67	294.25	220.13	0.75	0.83	0.93
インフルエンザ定点 計	354.44	237.42	0.67	294.25	220.13	0.75	0.83	0.93
急性出血性結膜炎	0.61	0.72	1.18	0.22	0.11	0.50	0.36	0.15
流行性角結膜炎	29.62	36.44	1.23	18.78	21.78	1.16	0.63	0.60
眼科定点 計	30.23	37.16	1.23	19.00	21.89	1.15	0.63	0.59
性器クラミジア感染症	25.60	24.95	0.97	12.44	13.89	1.12	0.49	0.56
性器ヘルペスウイルス 感染症	8.87	9.16	1.03	10.11	9.78	0.97	1.14	1.07
尖圭コンジローム	5.83	5.92	1.02	2.56	2.44	0.95	0.44	0.41
淋菌感染症	10.06	8.88	0.88	1.00	1.89	1.89	0.10	0.21
STD定点 計	50.36	48.91	0.97	26.11	28.00	1.07	0.52	0.57
細菌性髄膜炎	0.83	0.95	1.14	0.20	0.70	3.50	0.24	0.74
無菌性髄膜炎	1.90	2.24	1.18	0.30	5.80	19.33	0.16	2.59
マイコプラズマ肺炎	13.63	21.73	1.59	2.30	12.00	5.22	0.17	0.55
クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	0.68	0.86	1.26	0.80	0.30	0.38	1.18	0.35
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	8.48	9.12	1.08	1.60	6.80	4.25	0.19	0.75
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	37.82	35.61	0.94	14.70	18.00	1.22	0.39	0.51
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	4.81	4.29	0.89	1.00	1.20	1.20	0.21	0.28
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.56	0.45	0.80	0.20	0.80	4.00	0.36	1.78
基幹定点 計	68.71	75.25	1.10	21.10	45.60	2.16	0.31	0.61

5 定点把握対象感染症の定点当たり報告数の推移（平成23年～27年）

疾 病	全国					山梨県				
	H23年 2011	H24年 2012	H25年 2013	H26年 2014	H27年 2015	H23年 2011	H24年 2012	H25年 2013	H26年 2014	H27年 2015
RSウイルス感染症	22.62	31.18	30.72	31.93	38.16	11.63	7.79	13.17	14.88	22.67
咽頭結膜熱	21.23	17.00	23.22	25.12	22.93	19.63	9.29	7.67	17.33	8.17
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	84.70	88.18	80.83	96.78	127.55	60.13	97.79	68.38	66.88	117.79
感染性胃腸炎	313.96	391.66	340.93	319.68	314.02	266.33	365.33	308.92	264.17	251.08
水痘	76.17	62.27	55.70	50.15	24.67	43.17	38.46	33.75	24.50	14.92
手足口病	110.89	23.17	96.54	26.62	121.34	73.92	10.21	127.25	9.96	73.58
伝染性紅斑	27.77	6.67	3.22	10.29	31.32	29.25	2.92	1.25	1.50	30.50
突発性発しん	29.98	29.34	28.47	27.99	27.00	18.92	17.67	18.79	17.42	17.54
百日咳	1.40	1.30	0.53	0.66	0.85	0.42	0.29	0.38	0.25	0.17
ヘルパンギーナ	44.39	36.45	30.16	43.59	31.22	28.71	11.29	11.67	46.38	39.58
流行性耳下腺炎	43.76	22.76	13.05	14.74	25.76	43.63	26.67	5.67	4.17	3.96
小児科定点 計	776.87	709.98	703.37	647.55	764.82	595.74	587.71	596.90	467.44	579.96
インフルエンザ	278.55	341.14	237.20	354.44	237.42	258.60	274.30	242.98	294.25	220.13
インフルエンザ定点 計	278.55	341.14	237.20	354.44	237.42	258.60	274.30	242.98	294.25	220.13
急性出血性結膜炎	6.85	0.70	0.98	0.61	0.72	0.11	0.00	0.56	0.22	0.11
流行性角結膜炎	31.41	28.94	30.26	29.62	36.44	15.33	17.22	11.11	18.78	21.78
眼科定点 計	38.26	29.64	31.24	30.23	37.16	15.44	17.22	11.67	19.00	21.89
性器クラミジア感染症	26.56	25.26	26.29	25.60	24.95	10.89	17.56	16.22	12.44	13.89
性器ヘルペスウイルス感染症	8.52	8.89	9.01	8.87	9.16	8.00	6.78	8.22	10.11	9.78
尖圭コンジローム	5.40	5.63	5.90	5.83	5.92	2.33	2.33	1.67	2.56	2.44
淋菌感染症	10.60	9.52	9.74	10.06	8.88	1.56	1.33	2.22	1.00	1.89
STD定点 計	51.08	49.30	50.94	50.36	48.91	22.78	28.00	28.33	26.11	28.00
細菌性髄膜炎	1.20	1.01	0.95	0.83	0.95	0.30	0.10	0.40	0.20	0.70
無菌性髄膜炎	2.27	1.98	2.75	1.90	2.24	0.90	0.60	0.10	0.30	5.80
マイコプラズマ肺炎	36.51	49.99	24.07	13.63	21.73	10.50	25.60	7.20	2.30	12.00
クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	1.43	1.90	1.59	0.68	0.86	2.70	4.10	1.70	0.80	0.30
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)				8.48	9.12				1.60	6.80
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	49.77	46.74	42.43	37.82	35.61	12.10	14.30	13.20	14.70	18.00
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	9.86	7.48	6.65	4.81	4.29	2.30	1.60	0.80	1.00	1.20
薬剤耐性緑膿菌感染症	1.02	0.85	0.67	0.56	0.45	1.90	0.70	0.60	0.20	0.80
薬剤耐性アシネトバク ター感染症	0.01	0.01	0.02	0.01		0.00	0	0	0	
基幹定点 計	102.06	109.96	79.13	68.72	75.25	30.70	30.70	47.00	21.10	45.60

6 感染症発生動向調査の調査報告週対応表

週	調査週間	週	調査週間	週	調査週間
1	12/29 ~ 1/4	19	5/4 ~ 5/10	37	9/7 ~ 9/13
2	1/5 ~ 1/11	20	5/11 ~ 5/17	38	9/14 ~ 9/20
3	1/12 ~ 1/18	21	5/18 ~ 5/24	39	9/21 ~ 9/27
4	1/19 ~ 1/25	22	5/25 ~ 5/31	40	9/28 ~ 10/4
5	1/26 ~ 2/1	23	6/1 ~ 6/7	41	10/5 ~ 10/11
6	2/2 ~ 2/8	24	6/8 ~ 6/14	42	10/12 ~ 10/18
7	2/9 ~ 2/15	25	6/15 ~ 6/21	43	10/19 ~ 10/25
8	2/16 ~ 2/22	26	6/22 ~ 6/28	44	10/26 ~ 11/1
9	2/23 ~ 3/1	27	6/29 ~ 7/5	45	11/2 ~ 11/8
10	3/2 ~ 3/8	28	7/6 ~ 7/12	46	11/9 ~ 11/15
11	3/9 ~ 3/15	29	7/13 ~ 7/19	47	11/16 ~ 11/22
12	3/16 ~ 3/22	30	7/20 ~ 7/26	48	11/23 ~ 11/29
13	3/23 ~ 3/29	31	7/27 ~ 8/2	49	11/30 ~ 12/6
14	3/30 ~ 4/5	32	8/3 ~ 8/9	50	12/7 ~ 12/13
15	4/6 ~ 4/12	33	8/10 ~ 8/16	51	12/14 ~ 12/20
16	4/13 ~ 4/19	34	8/17 ~ 8/23	52	12/21 ~ 12/27
17	4/20 ~ 4/26	35	8/24 ~ 8/30		
18	4/27 ~ 5/3	36	8/31 ~ 9/6		

感染症発生動向調査事業報告書
平成 27 年版

平成 28 年 8 月 発行

編集・発行 山梨県感染症情報センター
(山梨県衛生環境研究所)

〒400-0027 山梨県甲府市富士見 1-7-31

電話 055-253-6721

FAX 055-253-5637

E-mail eikanken@pref.yamanashi.lg.jp

<http://www.pref.yamanashi.jp/eikanken/index.html>